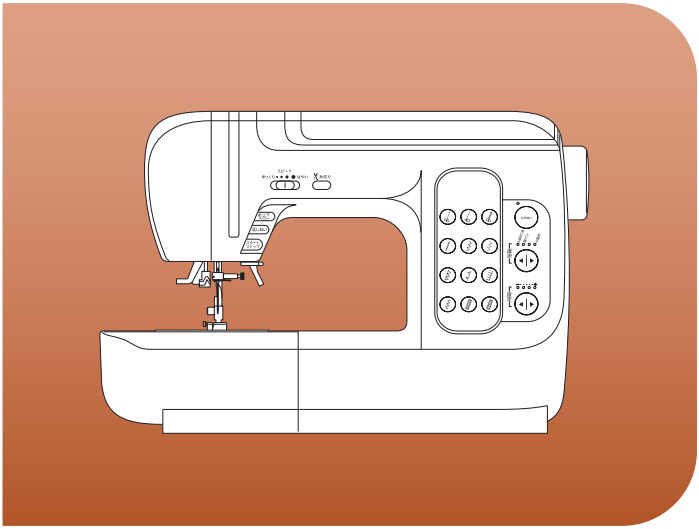
mon ami

使用の手びき

型式：SC-90



SINGER®

このミシンを安全にお使いいただくため、
この「使用の手びき」をご使用の前に必ず
お読みください。
「使用の手びき」は手元に保管し、末長く
ご活用ください。

このたびは、シンガーミシンをお買い上げいただき、ありがとうございます。
このミシンは、直線ぬいやジグザグぬいはもちろん、ホームソーイングに必要なぬいが簡単にできる家庭用コンピュータミシンです。
このミシンの特長をご理解していただき、正しくお使いいただくために、まずこの「使用の手びき」をよくお読みください。
「使用の手びき」は、保証書と共に大切に保管してください。

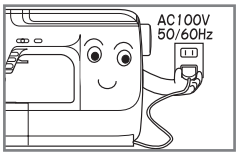
安全にご使用いただくために

このミシンを安全にご使用していただくために、以下のことがらを必ず守ってください。
このミシンは、日本国内向け、家庭用です。　FOR USE IN JAPAN ONLY.

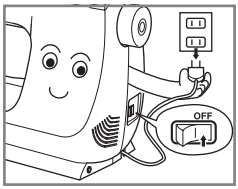
このマークは、禁止を表します。

⚠ 警告　感電、火災の恐れがあります。

1. 一般家庭用交流電源 100 V以外では使用しないでください。

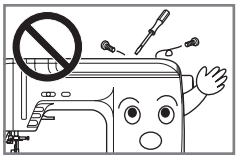


2. 以下のようなときは、電源スイッチを切り、電源プラグを引き抜いてください。
   ・ミシンのそばを離れるとき。
   ・ミシンを使用したあと。
   ・ミシン使用中に停電したとき。

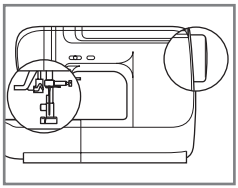


⚠ 注意　感電、火災、けがなどの原因となります。

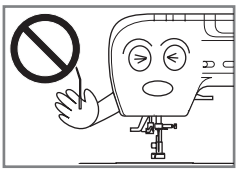
1. お客さま自身での分解、改造はしないでください。



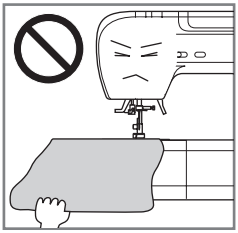
2. ミシンの操作中は、針から目を離さないようにし、針、ハズミ車などすべての動いている部分に手を近づけないでください。



3. 曲がった針はご使用にならないでください。

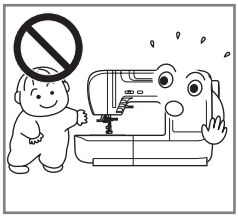


4. 縫製中に布を無理に引っ張ったり、押したりしないでください。



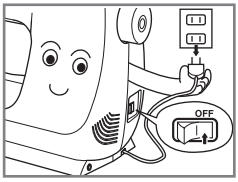
⚠ 注意　感電、火災、けがなどの原因となります。

5. お子様がご使用になるときや、お子様の近くで使用されるときは、特に安全に注意してください。

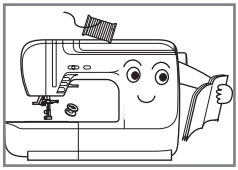


6. フットコントローラー（別売り品）の上に物をのせないでください。

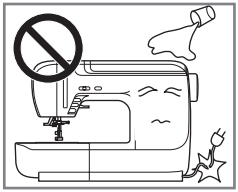
7. 使用の手びきに記載のあるミシンのお手入れを行うときは、電源スイッチを切り、電源プラグを引き抜いてください。



8. 上糸、下糸の交換をするときは、使用の手びきの手順に従って正しく行ってください。

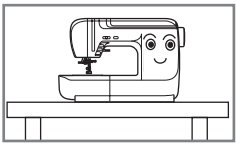


9. ミシン、フットコントローラーに以下の異常があるときは、速やかに使用を停止し、ご購入店、または別掲の「お客様相談係」にご連絡の上、点検、修理、調整をお受けください。

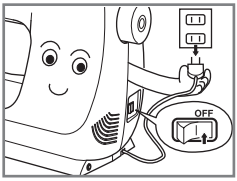


・正常に作動しないとき。
・落下などにより破損したとき。
・水に濡れたとき。
・電源コード、プラグ類が破損、劣化したとき。
・異常な臭い、音がするとき。
・中に異物が入ったとき。

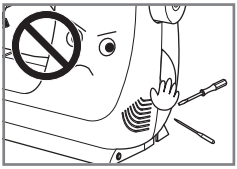
10. ミシンは安定した平らなテーブルや机の上でご使用ください。



11. 電源プラグを抜くときは、電源スイッチを切り、プラグを持って引き抜いてください。

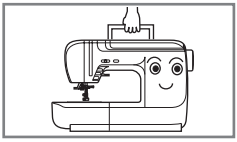


12. 換気口やスキマに異物を入れたり、ドライバーを差し込んだりしないでください。

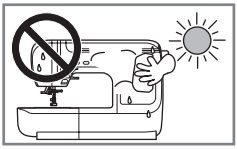


13. ミシンの通気口をふさがないでください。

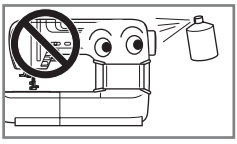
14. ミシンを持ち運ぶときは、必ずハンドルを持ってください。



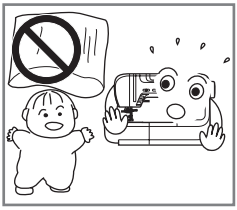
15. 直射日光に当てたり、高温多湿のところには置かないでください。



16. スプレー製品などを使った部屋では使用しないでください。

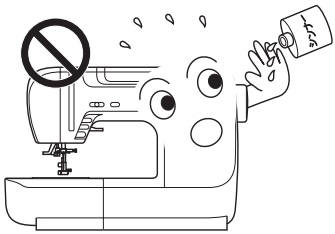


17. 袋類は、お子様がかぶらないように、お子様の手の届かないところに保管するか、廃棄してください。

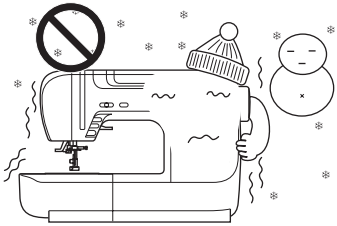


ミシンの取り扱い

● シンナーやベンジンなどでふかないでください。
汚れたら、やわらかい布に中性洗剤を少し含ませて、よくふき取ってください。



● 低温の場所から出したときは、普通の温度になじむまで、しばらく置いてください。
時間がたてば正常に作動するようになります。
保管は、なるべく寒いところをさけてください。

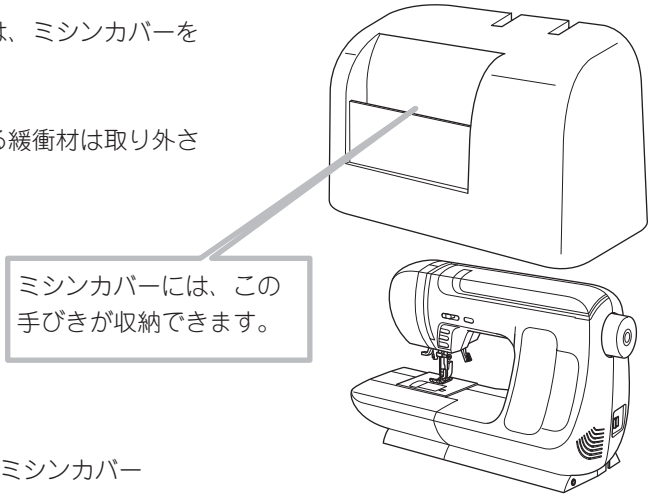


シンガーは、皆様に常に最新の裁縫性能を提供するために、必要に応じてこのミシンの外観、デザインまたは、付属品を変更することがあります。

ミシンカバー

ミシンを使わないときは、ミシンカバーをかぶせておきましょう。

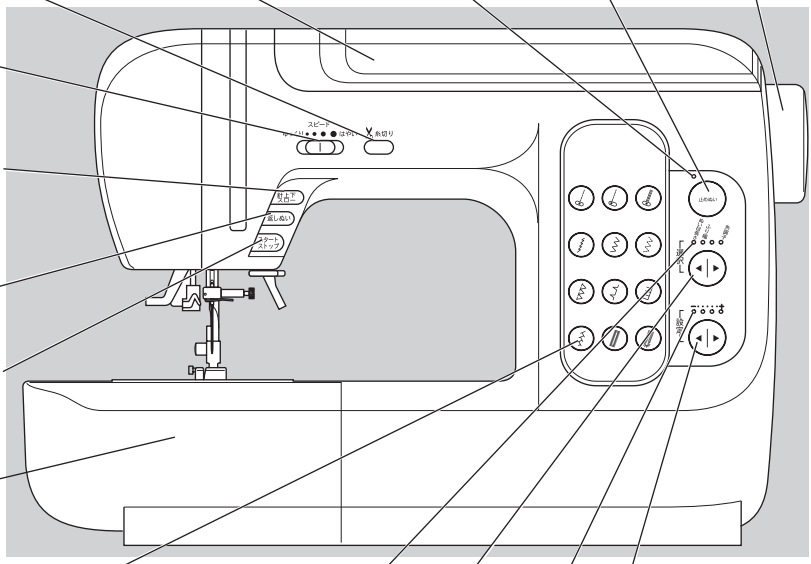
ミシンカバーの中にある緩衝材は取り外さないでください。

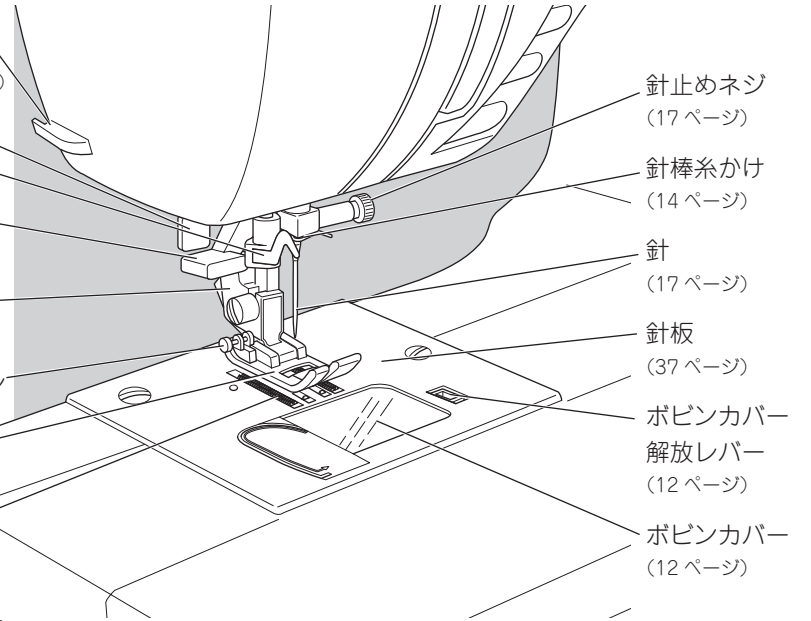


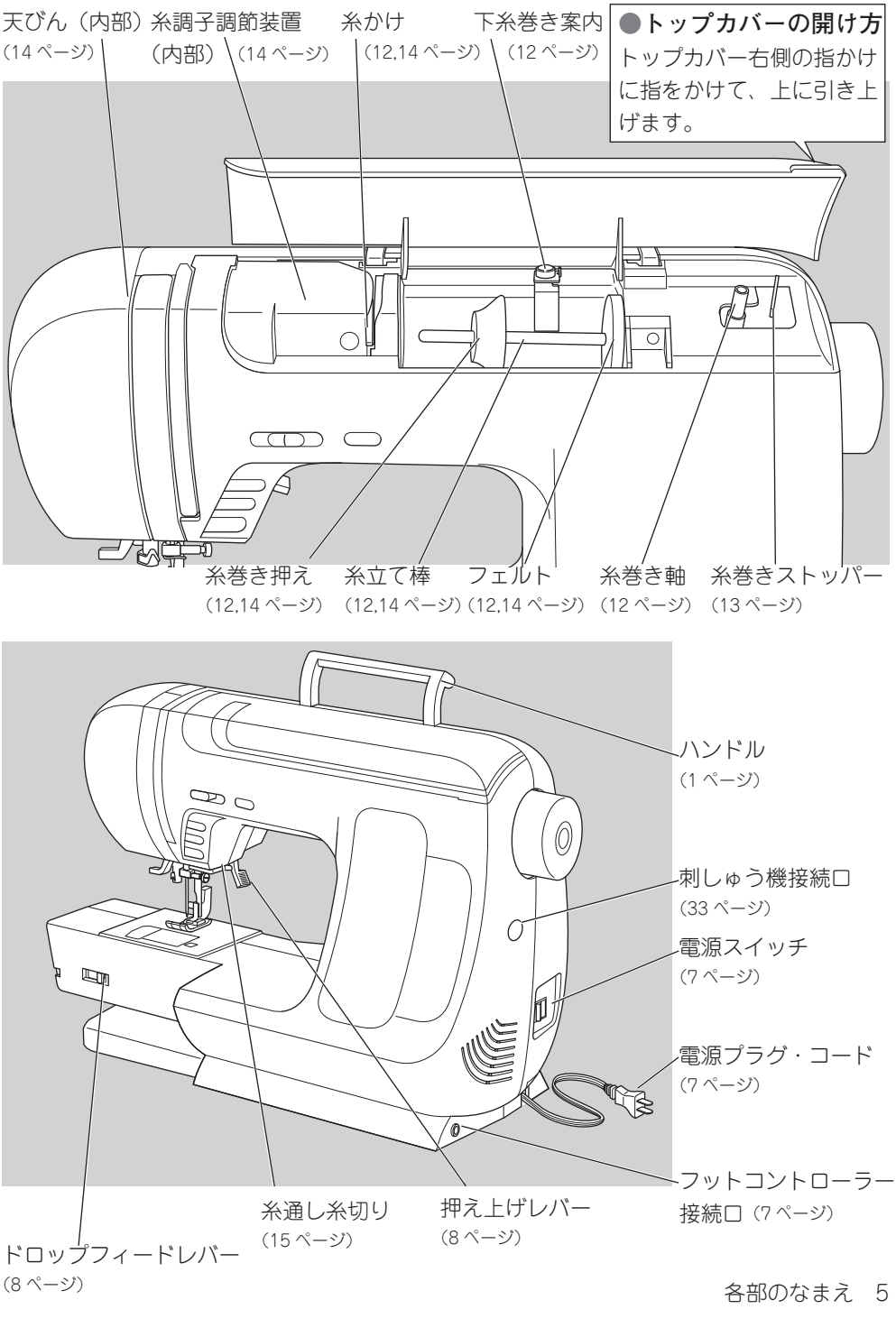
目次

安全にご使用いただくために ..... 表紙裏
ミシンの取り扱い 2
ミシンカバー 2
各部のなまえ 4
付属品・補助テーブル 6
　付属品 6
　補助テーブルの開け方 6
　補助テーブルの取り外し方 6
電源を入れましょう 7
フットコントローラーのご案内（別売り品）..... 7
操作ボタン 8
　スタート・ストップボタン
　（お知らせランプ）..... 8
　スピード調節つまみ 8
　糸切りボタン 8
　針上下／クイックスローボタン 8
　返しぬいボタン 8
　押え上げレバー 8
　ドロップフィードレバー 8
模様の選び方 9
　模様選択ボタン 9
　止めぬいボタン 9
　機能表示ライト 9
　機能選択ボタン 9
　設定表示ライト 9
　設定ボタン 9
　模様設定一覧 9
　ぬい目長さ 10
　ふり幅 10
　糸調子 11
下糸の準備 12
　ボビンの取り出し方 12
　下糸の巻き方 12
　ボビンのセット 13
上糸の準備 14
　上糸のかけ方 14
　糸通しの使い方 15
押えと押えホルダーの取りかえ方 16
　押えの取りかえ方 16
　押えホルダーの外し方 16
糸と針の選び方 17
針の取りかえ方 17
ぬってみましょう 18
　ぬい始め～ぬい終わり 18
　糸切りボタンを使わないとき 19
　返しぬい 19
　自動止めぬい 19
　ぬい方向の変え方 20
　厚地のぬい始め
　（段ぬい押えボタンの使い方）..... 20
　段ぬい 21
　下糸を長くとってぬい始めたいとき 21
直線ぬい 22
伸縮強化ぬい 22
伸縮ぬい 23
アップリケ 23
ジグザグぬい 24
つくろいぬい（点線ジグザグぬい）..... 24
ふちかがりぬい（たち目かがり）..... 25
まつりぬい（ブラインドステッチ）..... 26
パッチワーク 27
ピンタック 27
ボタンホールぬい 28
ファスナー付け（つき合わせ・脇あき）..... 30
　つき合わせ 30
　脇あき 31
フリーアームぬい 32
大型テーブルのご案内（別売り品）..... 32
刺しゅう機のご案内（別売り品）..... 33
キルティング押えのご案内（別売り品）..... 34
　キルティング押えの取り付け方 34
　ぬい方（曲線ぬい）..... 34
上送り押えのご案内（別売り品）..... 35
　上送り押えの取り付け方 35
　ぬい方 35
ミシンのお手入れ 36
　ミシン表面、ミシンカバーの掃除 36
　ボビンケースの掃除 36
　外がまと送り歯の掃除 37
こんなときには 38
お問い合わせまたはご相談先
（純正部品の購入方法）..... 39
仕様 39
修理サービス要領 40
保証書 ..... 裏表紙

各部のなまえ


糸切りボタン
(8 ページ)
トップカバー
(5 ページ)
止めぬい表示ライト
(9 ページ)
止めぬいボタン
(9 ページ)
ハズミ車
(16-18 ページ)
スピード調節つまみ
(8 ページ)
針上下／スローボタン
(8 ページ)
返しぬいボタン
(8 ページ)
スタート・ストップボタン
(8 ページ)
補助テーブル
(6 ページ)
模様選択ボタン
(9 ページ)
機能表示ライト
(9 ページ)
設定ボタン (9 ページ)
機能選択ボタン
(9 ページ)
設定表示ライト
(9 ページ)


面板糸切り
(19 ページ)
ボタンホールレバー (28 ページ)
糸通し
(15 ページ)
糸通しレバー
(15 ページ)
押えホルダー
(16 ページ)
段ぬい押えボタン
(20 ページ)
押え
(16 ページ)
送り歯
(8 ページ)
針止めネジ
(17 ページ)
針棒糸かけ
(14 ページ)
針
(17 ページ)
針板
(37 ページ)
ボビンカバー解放レバー
(12 ページ)
ボビンカバー
(12 ページ)

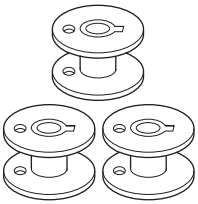

天びん（内部）
（14 ページ）
糸調子調節装置
（内部）
（14 ページ）
糸かけ
（12,14 ページ）
下糸巻き案内
（12 ページ）
●トップカバーの開け方
トップカバー右側の指かけに指をかけて、上に引き上げます。
糸巻き押え
（12,14 ページ）
糸立て棒
（12,14 ページ）
フェルト
（12,14 ページ）
糸巻き軸
（12 ページ）
糸巻きストッパー
（13 ページ）
ハンドル
（1 ページ）
刺しゅう機接続口
（33 ページ）
電源スイッチ
（7 ページ）
電源プラグ・コード
（7 ページ）
フットコントローラー
接続口（7 ページ）
糸通し糸切り
（15 ページ）
押え上げレバー
（8 ページ）
ドロップフィードレバー
（8 ページ）

付属品・補助テーブル

●付属品

付属品は補助テーブルの中に入っています。

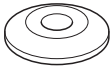
針ケース（5本入り）
11番、14番、16番
ニット針（黄色）11番、14番



ボビン

ブラシ

ドライバー

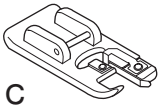


糸巻き押え（小）

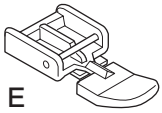
シームリッパー

●押え

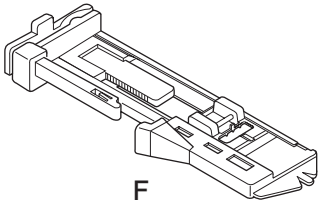
押えには、わかりやすいように
それぞれ記号がついています。



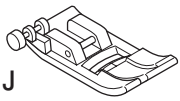
C
ふちかがり押え



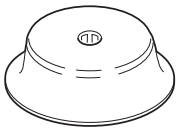
E
ファスナー押え



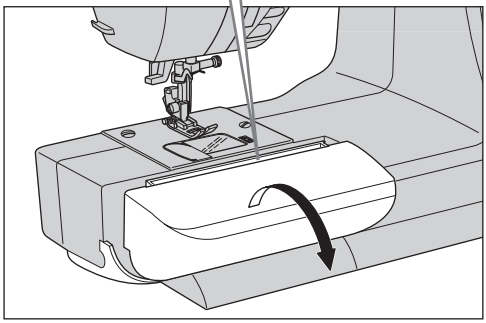
F
ボタンホール押え



J
ジグザグ押え
（ミシンについています）



糸巻き押え
（ミシンについています）

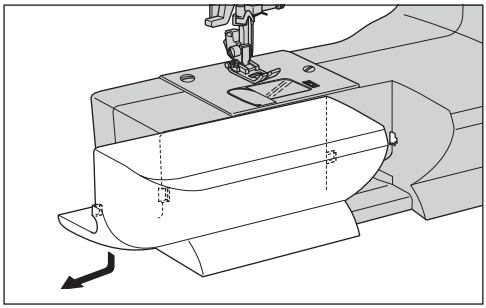


●補助テーブルの開け方

テーブル手前の角に指をかけ、手前に倒します。

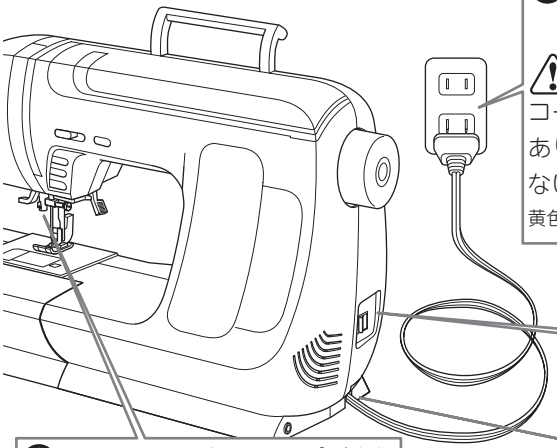
●補助テーブルの取り外し方

テーブルの左下に指をかけて、左に引きます。
取り付けは、テーブルのツメがミシンに入るように合わせ、右にすべり込ませます。



電源を入れましょう

ミシンを安定した場所に置きます。



❶ 電源プラグをコンセントに差し込みます。

⚠ **警告：感電、火災を防ぐために；**
コードを引き出しすぎると断線の恐れがありますので、赤いマーク以上引き出さないでください。
黄色のマークが出たら、まもなく赤いマークです。

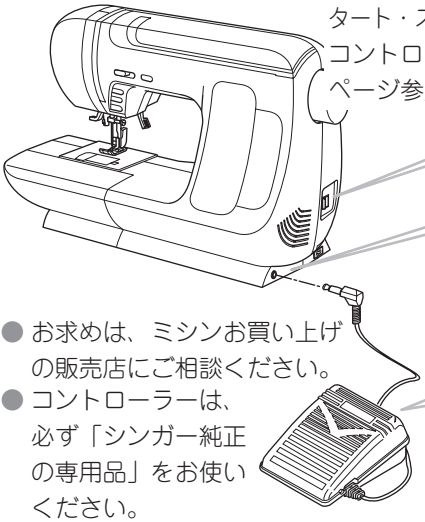
❷ 電源スイッチを入れます。

● コードをしまうときは、コードを少し引っ張って、はなしてください。

❸ 電源を入れると、ランプが点灯します。
模様は直線ぬい（ ）が選ばれます。

フットコントローラーのご案内（別売り品）

別売りのフットコントローラーを使えば、足の操作でミシンのスタート・ストップ、スピードの調節ができるようになります。
コントローラーを接続するとスタート・ストップボタン（次ページ参照）はきかなくなります。



❶ 電源スイッチを切ります。

❷ コントローラーのプラグをミシンのフットコントローラー接続口に差し込みます。

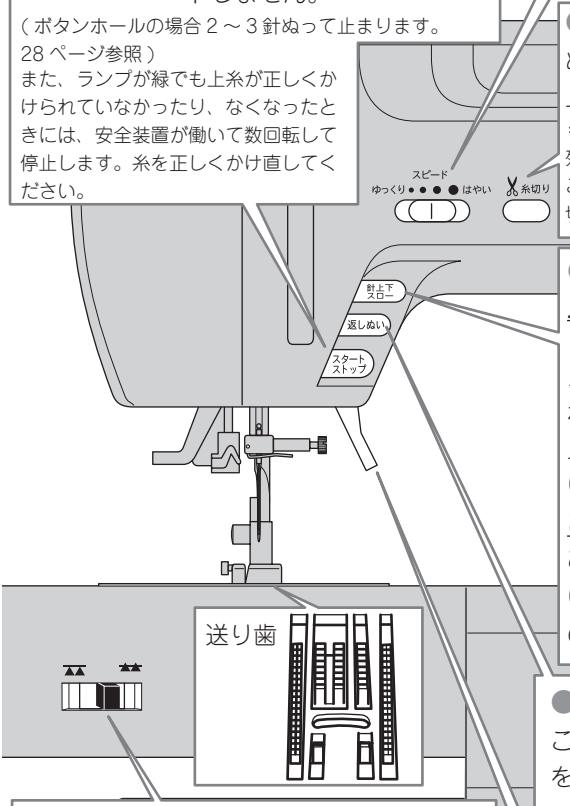
❸ コントローラーを足元に置き、電源を入れ直します。
ペダルを踏むとミシンがスタートし、強く踏み込むほどスピードが速くなります。
ペダルを放すとストップします。
スピード調節つまみ（次ページ参照）は、最高スピードを調節します。速くしたいときは、右にセットしてください。
押えを下げないとスタートしません。（次ページ参照）

● お求めは、ミシンお買い上げの販売店にご相談ください。
● コントローラーは、必ず「シンガー純正の専用品」をお使いください。

⚠ **警告；感電、火災を防ぐために；**
コントローラーは、落としたり、座ブトンの下において使用しないで下さい。

⚠ **注意：ケガ防止のために；**
コントローラーを接続するときは必ず電源スイッチを切ってから行って下さい。

操作ボタン



●スタート・ストップボタン（お知らせランプ）

1 度押すとスタートし、もう 1 度押すとストップします。

ぬい始めはゆっくり動きます。

緑の点灯 ..... ぬいや下糸巻きの準備 OK

赤の点灯 ..... 押えやボタンホールレバーが下りていないのでスタートしません。

（ボタンホールの場合 2 ～ 3 針ぬって止まります。28 ページ参照）

また、ランプが緑でも上糸が正しくかけられていなかったり、なくなったときには、安全装置が働いて数回転して停止します。糸を正しくかけ直してください。

●スピード調節つまみ

右にスライドさせると速く、左にスライドさせるとゆっくりになります。

●糸切りボタン

ぬいの終わりにこのボタンを押すと、上糸と下糸を同時に切ります。

＊番手が 30 番以下の太い糸やナイロン糸など特殊な糸には、糸切りボタンを使わないでください。これらの糸を切る場合には、ミシン左側の面板糸切りをお使いください。（19 ページ参照）

●針上下／クイックスローボタン

止まっているとき：針上下ボタン

ミシンが止まっているときにこのボタンを押すと、針の位置が上下に切りかわります。

上位置から続けて 2 回押すと 1 針ぬいになります。

ぬっているとき：クイックスローボタン

ぬいの途中で 1 度押すと、ゆっくりぬいになります。もう 1 度押すと、もとのぬいスピードに戻ります。

●返しぬいボタン

このボタンを押している間、返しぬいを低速でぬいます。放すと止まります。

●押え上げレバー

このレバーで押えの上げ下げをします。押えが上がっているときは、ミシンはスタートしません。（下糸巻きを除く）

●ドロップフィードレバー

このレバーで送り歯の上げ下げをします。レバーを右にすると、送り歯が針板の上に出てきて、布を送ります。通常は、この位置にしておきます。

レバーを左にすると、送り歯が針板より下がり、布を送りません。キルティング押え（別売り品：34 ページ参照）を使って曲線ぬいをするときなど、布を手で操作するときには、この位置にします。

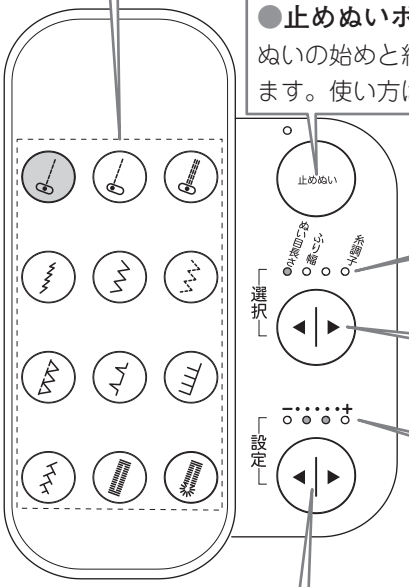
また、別売りの刺しゅう機（33 ページ参照）を使って刺しゅうぬいをするときにも送り歯を下げます。

模様の選び方

●模様選択ボタン

模様のボタンを押すと、ライトが点灯し、模様が選ばれます。
模様を選ぶと、その模様に最適なぬい目長さ、ジグザグのふり幅、糸調子に自動設定されます。

機能選択ボタン、設定ボタンを使って設定を変えることができます。



●止めぬいボタン

ぬいの始めと終わりに自動で止めぬいをします。使い方は 19 ページをご覧ください。

止めぬいを有効にすると、止めぬい表示ライトが点灯します。

●機能表示ライト

ぬい目長さ、ジグザグのふり幅、糸調子の機能のうち、選ばれた機能のライトが点灯します。（次ページ参照）

●機能選択ボタン

ボタンの左右を押して、機能を切り換えます。（次ページ参照）

●設定表示ライト

選ばれた機能の設定状態をライトの点灯で表示します。（次ページ参照）

●設定ボタン

ボタンの左右を押して、設定を変えます。（次ページ参照）

●模様設定一覧

模様							
設定表示ライト	1	2	3	4	5	6	7
ぬい目長さ	1.0	1.4	1.8	**2.5**	3.0	4.0	5.0
針位置(0.0:左～7.0:右)	**3.5**	4.1	4.7	5.3	5.8	6.4	7.0

模様							
設定表示ライト	1	2	3	4	5	6	7
ぬい目長さ	1.0	1.4	1.8	**2.5**	3.0	4.0	5.0
針位置(0.0:左～7.0:右)	**0.0**	0.6	1.2	1.8	2.3	2.9	3.5

模様							
設定表示ライト	1	2	3	4	5	6	7
ぬい目長さ	1.4	1.6	1.8	2.0	2.2	2.4	**2.6**
針位置(0.0:左～7.0:右)	0.0	1.2	2.3	**3.5**	4.7	5.8	7.0

模様							
設定表示ライト	1	2	3	4	5	6	7
ぬい目長さ	1.4	1.6	1.8	2.0	2.2	2.4	**2.6**
針位置(0.0:左～7.0:右)	----	----	----	----	----	----	**3.5**

模様							
設定表示ライト	1	2	3	4	5	6	7
ぬい目長さ	1.0	1.4	1.6	1.8	**2.0**	2.5	3.0
ジグザグのふり幅	2.0	2.5	3.0	3.5	4.0	**5.0**	6.0

模様							
設定表示ライト	1	2	3	4	5	6	7
ぬい目長さ	0.4	0.6	0.8	**1.0**	1.2	1.6	2.0
ジグザグのふり幅	2.5	3.0	3.5	4.0	**5.0**	6.0	7.0

模様							
設定表示ライト	1	2	3	4	5	6	7
ぬい目長さ	1.4	1.6	1.8	2.0	2.2	2.4	**2.6**
ジグザグのふり幅	4.0	4.5	**5.0**	5.5	6.0	6.5	7.0

模様							
設定表示ライト	1	2	3	4	5	6	7
ぬい目長さ	1.4	1.6	1.8	2.0	2.2	2.4	**2.6**
ジグザグのふり幅	2.5	3.0	**3.5**	4.0	4.5	5.0	5.5

模様							
設定表示ライト	1	2	3	4	5	6	7
ぬい目長さ	1.4	1.6	1.8	2.0	2.2	2.4	**2.6**
ジグザグのふり幅	3.5	----	----	**5.0**	----	----	6.5

模様							
設定表示ライト	1	2	3	4	5	6	7
ぬい目長さ	0.30	0.35	0.40	0.45	**0.50**	0.60	0.70
ジグザグのふり幅	3.5	----	----	**5.0**	----	----	6.5

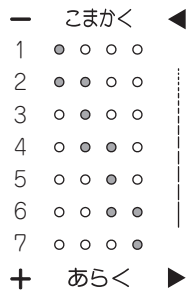
模様							
設定表示ライト	1	2	3	4	5	6	7
ぬい目長さ	0.30	0.35	0.40	0.45	**0.50**	0.60	0.70
ジグザグのふり幅	3.5	----	----	**5.0**	----	----	6.5

ぬい目長さとジグザグのふり幅のおおよその目安です。（単位 mm）
自動設定値は、白抜き文字で表示されています。

●ぬい目長さ　模様を選んだときにぬい目長さは、その模様に最適な長さに自動設定されます。これを変えるには次のようにします。

❶ 機能選択ボタンを押して、ぬい目長さライトを点灯させます。
（模様を選んだときは、ぬい目長さライトが点灯しています。）

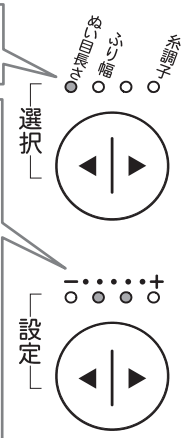
❷ 設定ボタンでぬい目長さを調節します。



「◀」を押すごとにこまかくなります。

「▶」を押すごとにあらくなります。

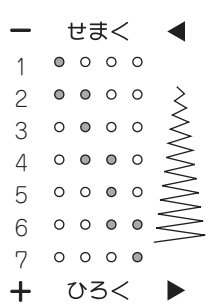
- 7段階に調節することができます。
- ぬいながらでも調節することができます。



●ふり幅　模様を選んだときにジグザグのふり幅は、その模様に最適なふり幅に自動設定されます。これを変えるには次のようにします。

❶ 機能選択ボタンを押して、ふり幅ライトを点灯させます。

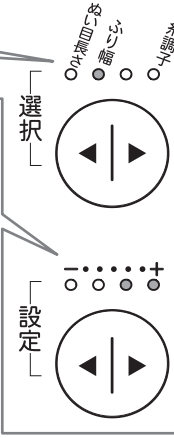
❷ 設定ボタンでふり幅を調節します。



「◀」を押すごとにせまくなります。

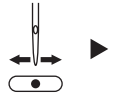
「▶」を押すごとにひろくなります。

- 7段階に調節することができます。
- ぬいながらでも調節することができます。
（ボタンホールを除く）
- ボタンホールぬい（ ）は、3段階に変わります。
- 伸縮ぬい（ ）は、変えられません。



- 直線ぬい（ ）の場合は、ふり幅のかわりに、ぬう時の針の左右位置を変えることができます。

「◀」ボタンを押すごとに左に移動します。



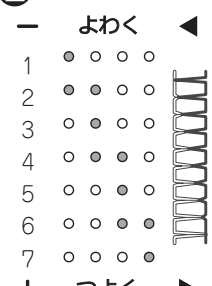
「▶」ボタンを押すごとに右に移動します。

は中央から右に、 は左から中央に、 は左から右に移動します。

●糸調子　模様を選んだときに上糸の糸調子は、その模様に合わせて自動設定されます。糸調子を変えてぬいたいときは、

❶ 機能選択ボタンを押して、糸調子ライトを点灯させます。

❷ 設定ボタンで糸調子を調節します。



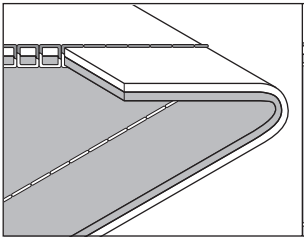
「◀」を押すごとに弱くなります。

「▶」を押すごとに強くなります。

- 7段階に調節することができます。
- ぬいながらでも調節することができます。

自動設定値

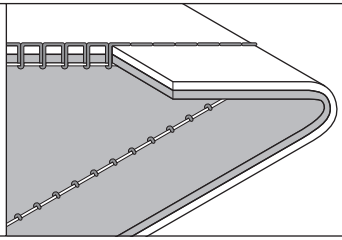
上糸と下糸が布地のほぼ中央でまじわります。（直線ぬい）



布や糸によっては設定値でも中央にまじわらない場合があります。

上糸が弱いぬい目

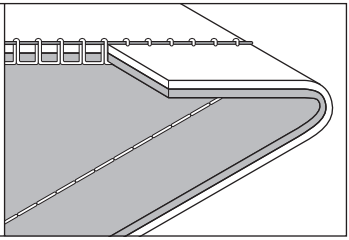
布地の裏側に上糸が出てきます。



上糸が弱すぎる場合は、「▶」ボタンを押します。

上糸が強いぬい目

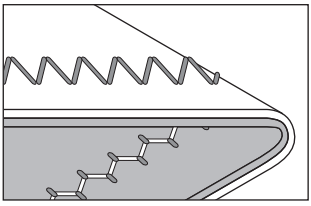
布地の表側に下糸が出てきます。



上糸が強すぎる場合は、「◀」ボタンを押します。

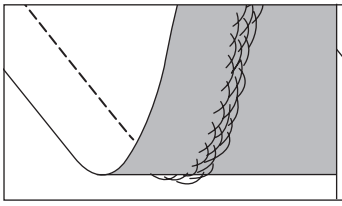
●直線ぬい以外の自動設定値

直線ぬい以外の自動設定値は、直線ぬいのときより糸調子をやや弱めにして、上糸が布の裏側に少し出るように調節されます。

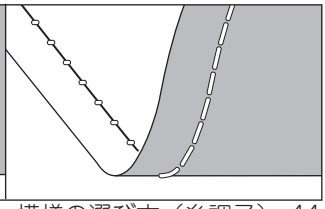


●こんな場合は…

図のように布地の表側は普通にぬえて、裏側がタオル地のようになるときは、上糸のかけ方がまちがっています。14ページをご覧の上、正しくかけてください。

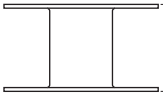


また、糸調子が自動設定値になっているのに、下糸が布地の表側に出てくるときは、ボビンのセットの仕方がまちがっています。13ページをご覧の上、正しくセットしてください。



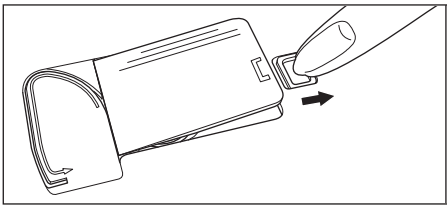
下糸の準備

お願い：
ボビンは、専用のもの
をお使いください。

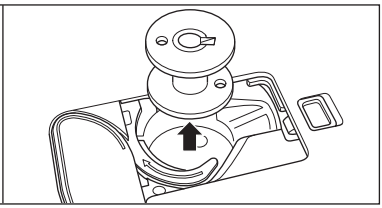


■ボビンの取り出し方

❶ ボビンカバー解放レバーを右に押して、ボビンカバーを取り外します。



❷ ボビンを取り出します。



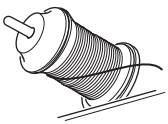
■下糸の巻き方

❶ トップカバーを開けます。

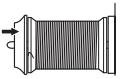
❷ 糸が下側から出るようにして、糸巻きを糸立て棒に入れ、糸巻き押えを差し込みます。

＊必ずフェルトを糸巻きの右にセットしてください。

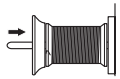
糸巻き押えは、糸巻きの大きさに合わせて方向を変えます。



大きい糸巻き



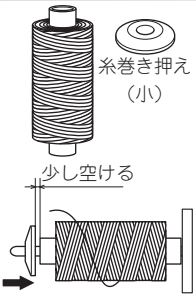
小さい糸巻き



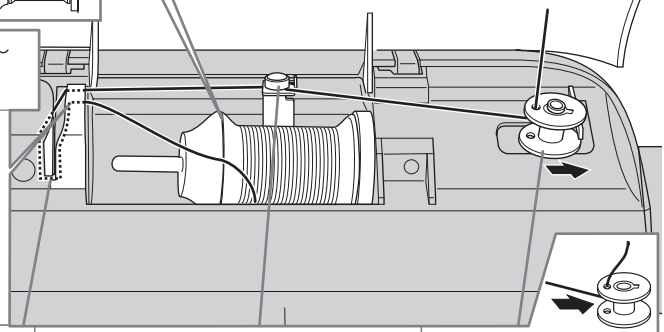
右図のような糸巻きをお使いの場合は、糸巻き押え（小）を取り付けてください。

＊通常の糸巻き押えでは、糸がスムーズに出ないときがあります。

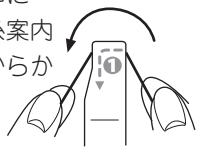
● 取り付けは、糸巻きとの間に少しスキマが空くようにして差し込みます。



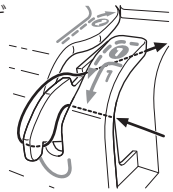
❸ ミシンに表示してある❶～❹の順番で糸をかけます。



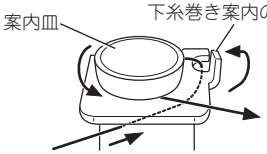
❶ 糸を両手で持ち、矢印にそって糸案内の後ろからかけます。



❷ 糸かけの下に右からかけ、上に引き上げます。



❸ 糸を右に引いて、下糸巻き案内の糸かけに下からかけ、案内皿の間に後ろから左回りでかけます。



❹ ボビンの穴に糸を通します。ボビンを糸巻き軸に差し込み、右へ押します。

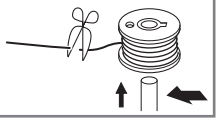
4 糸端を持ちながら、ミシンをスタートさせます。
スピードをゆっくりに調節します。

5 少し巻いたら、いったん止めて、余分な糸を切ります。

6 もう一度スタートさせます。
スピードを調節します。

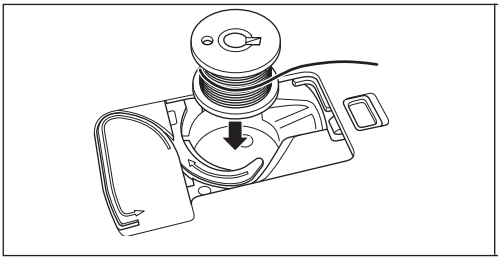
7 糸が糸巻きストッパーにあたるまで、いっぱいに巻かれると自動的にストップします。

8 糸を切り、糸巻き軸を左に戻して、ボビンを外します。

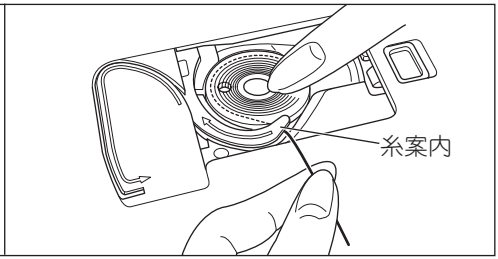


■ボビンのセット

❶ ボビンを糸が左回りになるようにして、ボビンケースに入れます。

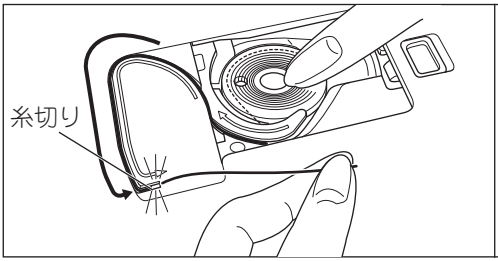


❷ 右手でボビンを軽く押え、左手で糸を糸案内に引っかけます。

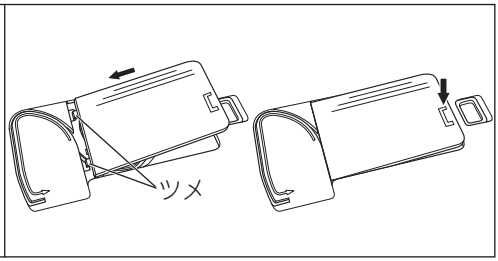


糸の方向を間違えないように注意してください。

❸ ミゾに沿って、上から下に通し、右に引いて、糸切りで切ります。



❹ ボビンカバー左側のツメをミゾに差し込み、右側を軽く押して取り付けます。



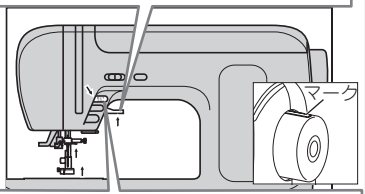
●お知らせ：
このミシンは、下糸を引き上げなくても、このままでぬい始めることが出来ます。
もし、下糸を引き上げてぬいたいときは、21 ページを参照してください。

上糸の準備

■上糸のかけ方

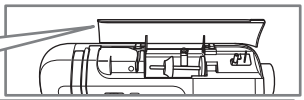
順序よく、正しくかけてください。

❶押え上げレバーを上げます。
レバーを上げないと糸調子調節装置に糸がかからず、糸調子がとれません。



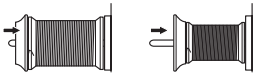
❷針上下ボタンで針を上に上げます。
針が上のときは、ハズミ車のマークも上にきます。
このマークが上にないときは、再度針上下ボタンを押すか、ハズミ車を回して上にしてください。

❸トップカバーを開けます。

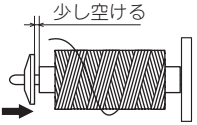


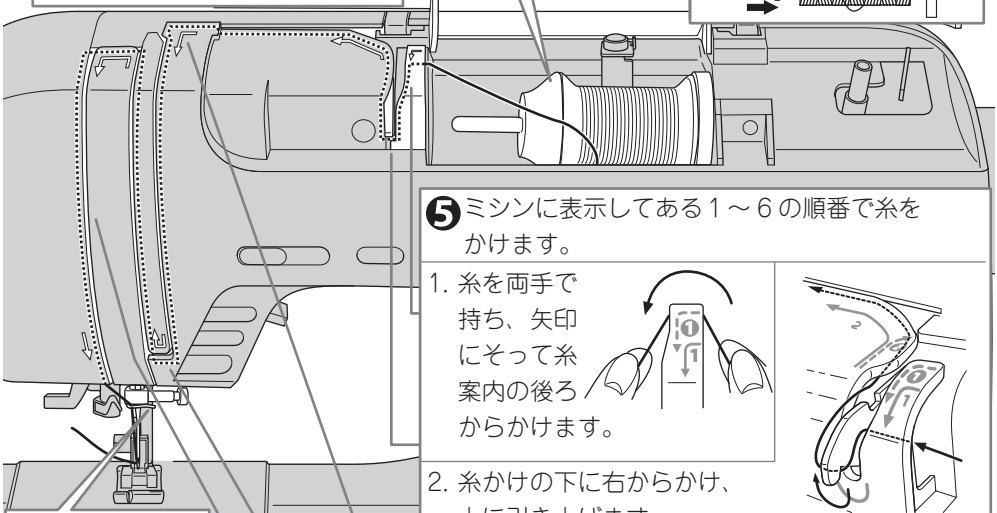
❹糸が下側から出るようにして、糸巻きを糸立て棒に入れ、糸巻き押えを差し込みます。
＊必ずフェルトを糸巻きの右にセットしてください。
糸巻き押えは、糸巻きの大きさに合わせて方向を変えます。

大きい糸巻き　小さい糸巻き



右図のような糸巻きをお使いの場合は、糸巻き押え（小）を取り付けてください。
＊通常の糸巻き押えでは、糸切りで糸が切れなかったり、糸調子がうまくとれないときがあります。
● 取り付けは、糸巻きとの間に少しスキマが空くようにして差し込みます。



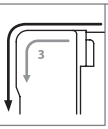


❺ミシンに表示してある１～６の順番で糸をかけます。

1. 糸を両手で持ち、矢印にそって糸案内の後ろからかけます。

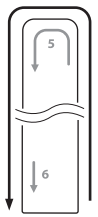
2. 糸かけの下に右からかけ、上に引き上げます。

3. 糸を左に引き、矢印にそって手前におろします。



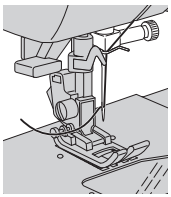
4. 右から左にかけ、上に引き上げます。

5,6. 矢印にそって右から左にかけ、下におろします。（中の天びんに糸がかかります。）



7. 針棒糸かけにかけます。
8. 針穴に前から通します。

糸通しを使う場合は、次ページを参照ください。



■糸通しの使い方

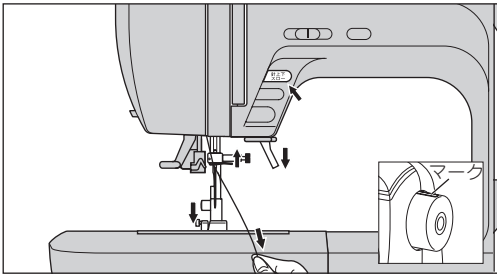
糸通しは、11 ～ 16 番の針、
50 ～ 100 番の糸に使えます。

⚠注意：ケガ防止のために；

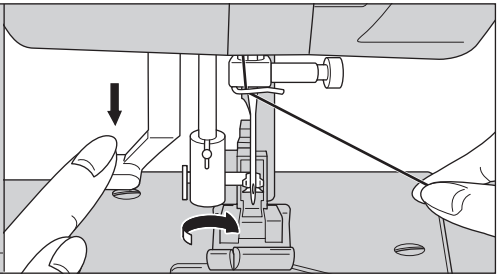
針の下に指を入れないでください。ケガの原因となります。
糸通しレバーを下げたとき、ハズミ車は回さないでください。
ケガや故障の原因となります。

❶ 糸を針棒糸かけから補助テーブル手前くらいまで引き出して、押え上げレバーを下げます。

❷ 糸通しレバーを下げて、止めます。
レバーは、下がったまま止まります。



針が上位置にないときは、針上下ボタンで上に上げます。
針が上のときは、ハズミ車のマークも上にきます。

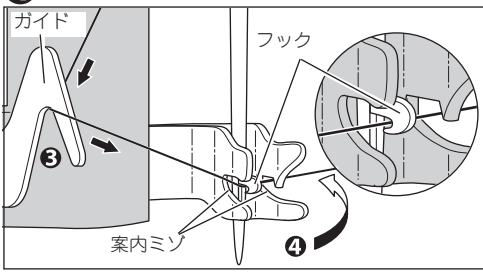


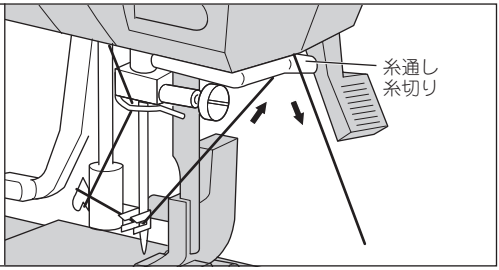
糸通しが回転し、フックが針穴を通ります。

❸ 糸を糸通しのガイドにかけて、右に引いていきます。

❹ 糸を案内ミゾに入れます。

❺ 糸を糸通し糸切りに後ろから手前にかけて切ります。



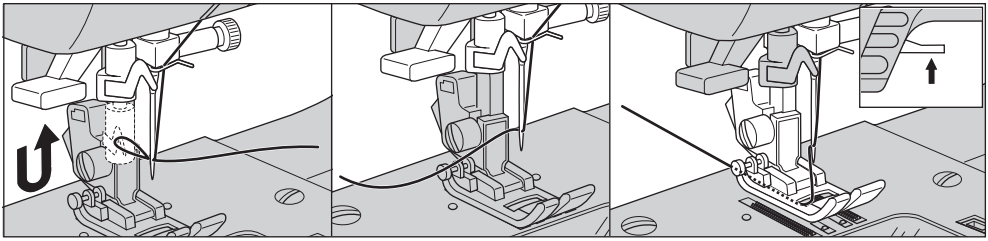


糸がフックに引っかかります。

❻ 糸通しレバーをもう一度押し下げて、放します。

❼ 糸端を引き出します。

❽ 押えを上げ、上糸を押えの下から 10cm くらい後ろへ出しておきます。



糸通しが戻り、糸が輪になって針穴を通ります。

押えと押えホルダーの取りかえ方

⚠注意：ケガ防止のために； 必ず電源スイッチを切ってから行ってください。	

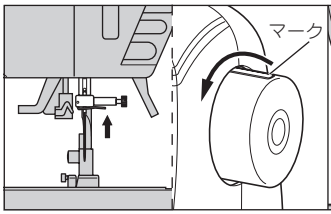
■押えの取りかえ方

押えは、ぬいの種類や用途によって使い分けます。それぞれのぬいに適した押えが 22 ページ以降に示してあります。

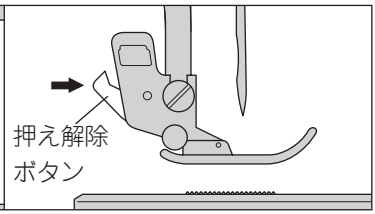
❶ ハズミ車を手前に回して、針を一番上に上げます。

❷ 押え上げレバーを上げます。

❸ 押え解除ボタンを押します。



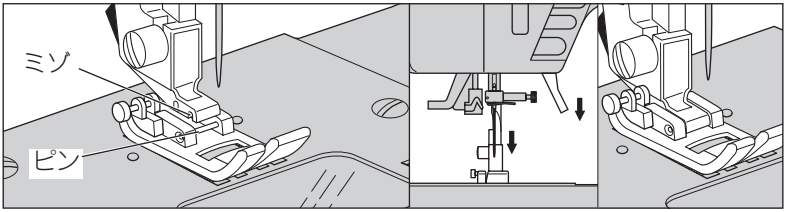
ハズミ車のマークが上にきます。



押えが外れます。

❹ 交換する押えのピンを押えホルダーのミゾの真下に合わせます。

❺ 押え上げレバーを下げます。



ピンがミゾにはまります。
もし、完全にはまらないときは、押え解除ボタンを押してみてください。

■押えホルダーの外し方

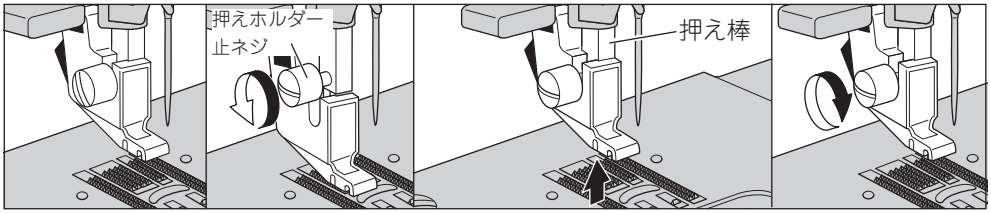
お手入れをするときや、キルティング押え、上送り押え（別売り品：34、35 ページ参照）を取り付けるときは、押えホルダーを外します。

❶ 押えを外します。

❷ 押えホルダー止ネジをゆるめます。

❸ 取り付けるときは、ホルダーを押え棒の下から突き当たるまで持ち上げます。

❹ ネジをしめます。



前項「押えの取りかえ方」参照

ホルダーが外れます。

糸と針の選び方

糸と針は、布地の種類や厚さに合わせて選びます。

布地の種類		糸の番号（番手）	針の番号	模様（直線）とぬい目長さ
薄地	薄地ジョーゼット、ボイル、オーガンジー、タフタ、絹布など。	綿　80～100 絹　60～80 化繊糸 80～100	9～11番	 ぬい目長さ 1.0～2.5 （設定表示 ライト1～4）
普通地	ギンガム、ピケ、リンネル、さらさ木綿、薄手のコーデュロイ、サテン、別珍、一般服地など。	綿　50～80 絹　50 化繊糸 50～80	11～14番	 ぬい目長さ 1.8～3.0 （設定表示 ライト3～5）
厚地	ギャバジン、ツイード、デニム、キルティング、コーデュロイなど。	綿　30～50 絹　50 化繊糸 30～60	14～16番	 ぬい目長さ 2.5～5.0 （設定表示 ライト4～7）
伸縮性の布地	ダブルニット、トリコット、スパンデックス、ジャージなど。	化繊糸 50～80 絹　50 ニット用糸	11～14番 ニット用針	

針の取りかえ方

⚠注意：ケガ防止のために；

必ず電源スイッチを切ってから行ってください。

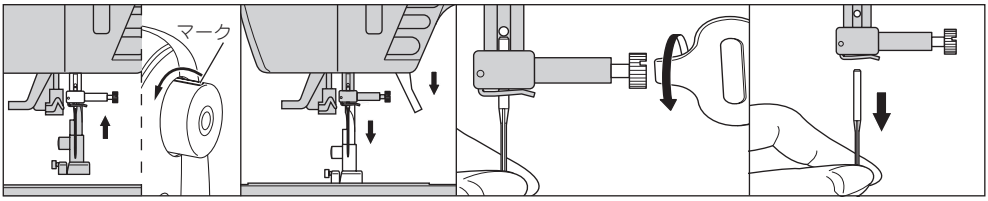
針板の上に紙や布をしいておくと、ミシンの中に針を落とす心配がありません。

❶ ハズミ車を手前に回して針を上げ、針板から浮かせます。

❷ 押え上げレバーを下げます。

❸ 針を左手で持ちながら、針止めネジをゆるめます。

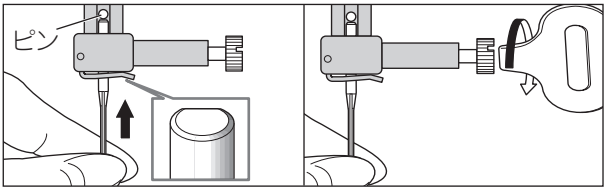
❹ 針を外します。



ハズミ車のマークが上にきます。

❺ 新しい針の平らな面を後ろにして、ピンにあたるまで差し込みます。

❻ 指で軽くネジをしめた後、付属のドライバーでしっかりしめます。



注意：市販の大きなドライバーなどであまり強くしめつけないでください。故障の原因となります。

⚠注意：ケガ防止のために；

- 針は、家庭用ミシン針とご指定の上、お買い求めください。
- 曲がった針や、先がつぶれた針はご使用にならないでください。

取り付け前には、針板など平らなものにのせ、のぞいてみて確かめてください。

ぬってみましょう

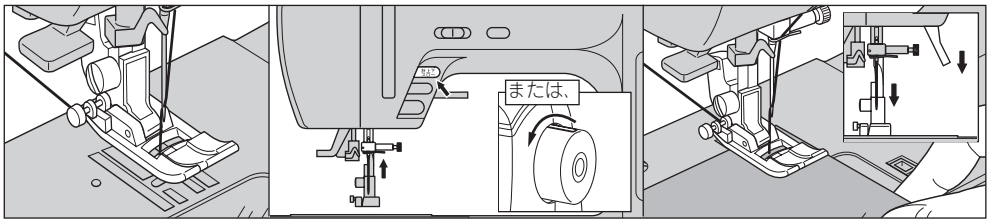
電源を入れると、直線ぬい（ ）が選ばれます。

■ぬい始め～ぬい終わり

❶ 押えを確かめます。（ジグザグ押え）

❷ 針上下ボタンを押すか、ハズミ車を手前に回して、針を上に上げます。

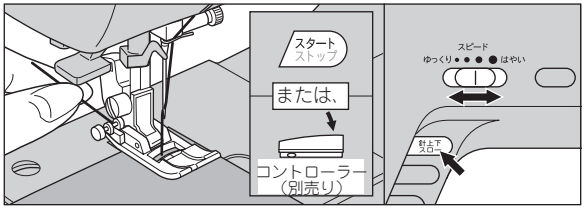
❸ 布地を入れ、押えを下げます。



押えの取りかえ方は 16 ページ

お知らせランプが緑色になります。

❹ 糸端を軽く後ろに持ちながら、スタートさせます。
ぬいながらスピードを調節できます。また、ぬいの途中でクイックスローボタンを押すとゆっくりぬいになります。



少しぬったら糸を放します。

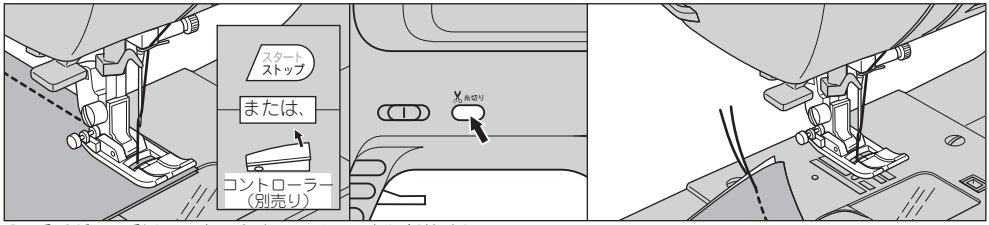
⚠注意：ケガ防止のために；

- 針先に十分注意してください。
- 布地は、ミシンによって自動的に送られますので、無理に引っ張ったり、押したりしないでください。針が折れケガをする恐れがあります。

❺ 終わりまで来たら、ストップします。

❻ 糸切りボタンを押します。

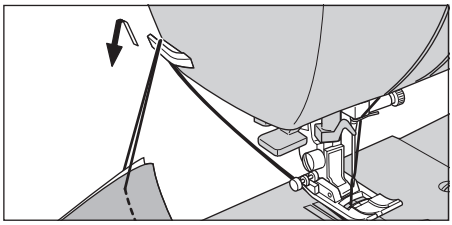
❼ 押えを上げ、布を引き出します。



- 番手が 30 番以下の太い糸や、ナイロン糸など特殊な糸には、糸切りボタンを使わずにミシン左側の面板糸切りにかけて切ってください。（19 ページ参照）
- 布のないときや、糸を切る必要がないときに、むやみに糸切りボタンを押さないでください。故障の原因となります。

■糸切りボタンを使わないとき

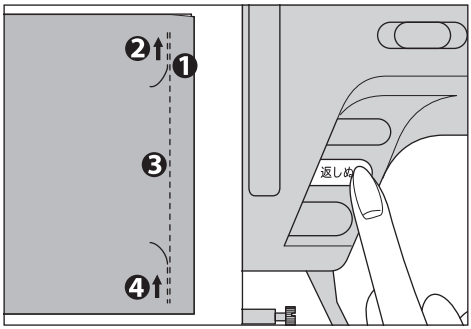
番手が 30 番以下の太い糸や、ナイロン糸など特殊な糸を使っているとき、ぬい端の糸を長くとりたいときなどは、糸切りボタンを使わずに、針と押えを上げて布を引き出し、ミシン左側の面板糸切りに糸を後ろから手前にかけて切ります。



■返しぬい

ぬい目のほつれを防ぐため、返しぬいボタンを使って、ぬい始めとぬい終わりに直線の返しぬいをします。（返しぬいボタンは、押している間、返しぬいをし、放すと止まります。）

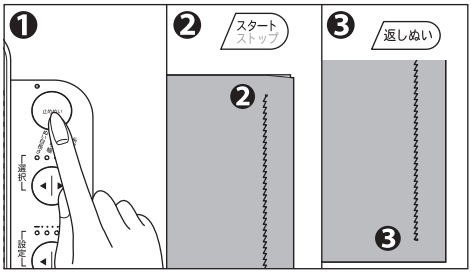
❶ 返しぬいの分、布を奥に入れて、押えを下げます。
❷ 返しぬいボタンを押し続けて、４～５針返しぬいをします。
❸ ぬいをスタートさせます。
❹ 終わりまで来たら、返しぬいボタンを押し続けて、４～５針返しぬいをします。



■自動止めぬい

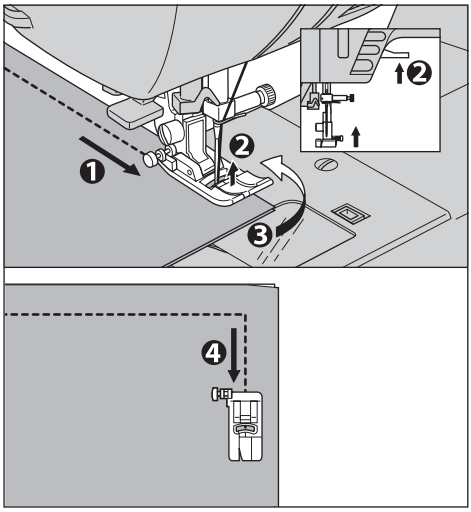
模様のぬい始めとぬい終わりに、自動的に止めぬいをします。

❶ 模様を選んだ後、止めぬいボタンを押します。
止めぬい表示ライトが点灯します。
もう一度押すと取り消されます。
❷ ぬいをスタートさせます。
ミシンは止めぬいをしてからぬい始めます。
スタート・ストップボタンで中断できます。
❸ ぬい終わりまで来たら、返しぬいボタンを１回押します。
ミシンは止めぬいをして自動的に停止します。



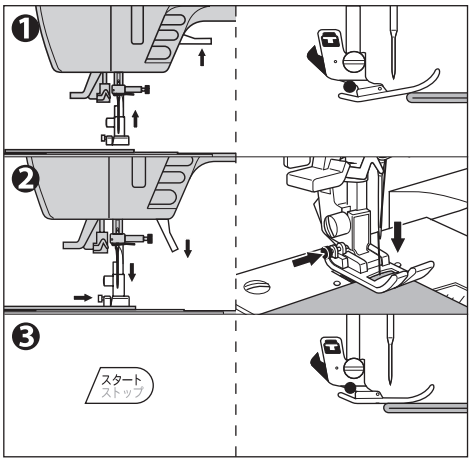
■ぬい方向の変え方

❶ 布地の角まで来たら、ストップします。
（針が下位置で停止します。）
❷ 押えを上げます。
❸ 針を軸にして布地を回し、ぬい方向にセットします。
❹ 押えを下げて、続きをぬいます。

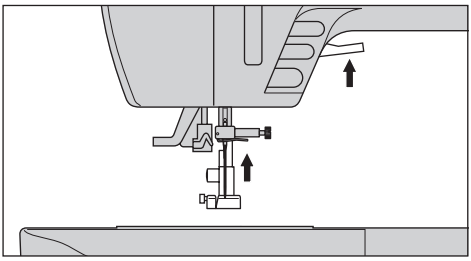


■厚地のぬい始め（段ぬい押えボタンの使い方）

❶ 厚地の布端からぬい始めるときに、押えが傾いてスムーズにぬえないときは、押えをいったん上げます。
❷ ジグザグ押えの左側にある黒い段ぬい押えボタンを押しながら、押え上げレバーを下げます。
❸ ぬいをスタートさせます。
押えの傾きが固定されて布が送られます。
ぬい進むと、自動的に固定解除されます。

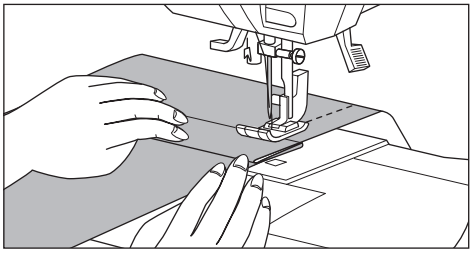


● 押え上げレバーをさらに上げると、押えがもう一段上がり、厚地の布が入れやすくなります。
このとき、上がった押えは固定されません。押え上げレバーから手を放すと、押えは❶で上げた位置に戻ります。



■段ぬい

布地が重なって、急に厚くなった部分をぬうときは、手で布の送りを助けながらぬいます。

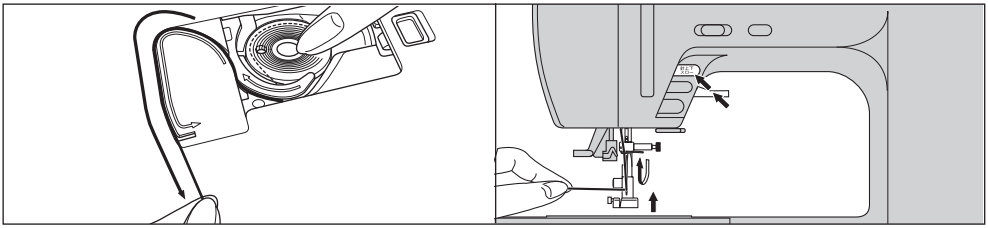


■下糸を長くとってぬい始めたいとき

下糸を長くとってぬい始めたいときは、次のようにして下糸を引き上げておきます。

❶13 ページの「ボビンのセット」を見ながらボビンを入れ、糸をミゾに通します。このとき、糸は切らないでください。

❷ 押えを上げ、上糸を軽く持ちながら、針上下ボタンを２回続けて押します。

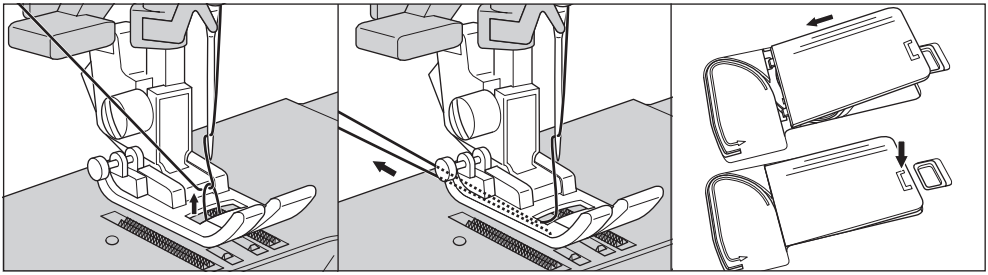


ハズミ車が手前に１回転します。

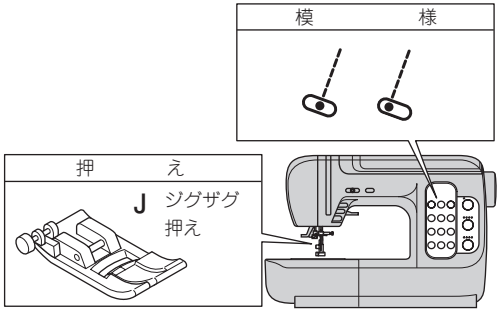
❸ 上糸を静かに引くと、下糸が輪になって出てきます。

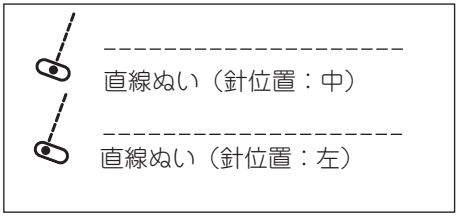
❹ 上糸と下糸をそろえて押えの下から 10cm くらい後ろへ出しておきます。

❺ ボビンカバーを取り付けます。（13 ページ参照）



直線ぬい





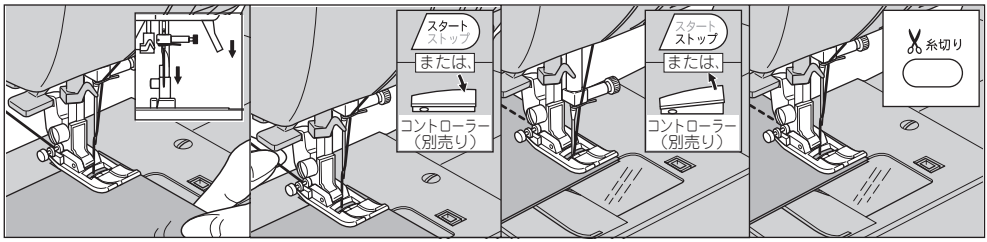
布地に合わせて、模様を選びます。
針位置：左は端ぬいに適しています。
針位置は、ふり幅の機能設定で変えられます。

❶ 布を入れ、押えを下げます。

❷ 糸端を軽く後ろに持ちながら、スタートさせます。

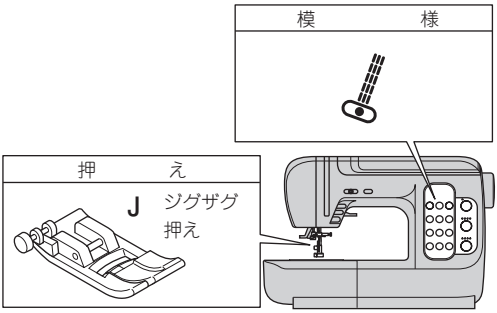
❸ ぬい終わりまできたら、ストップさせます。

❹ 糸切りボタンを押します。

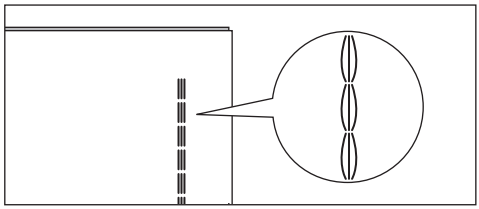


ぬっている間、手は布に軽くそえるようにします。

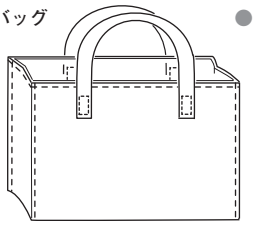
伸縮強化ぬい



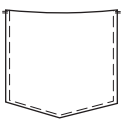
直線の３重ぬいです。丈夫で伸縮性のあるぬい目なので、力がかかってほつれやすい部分やデニムなどの丈夫な布地のぬい合わせに最適です。



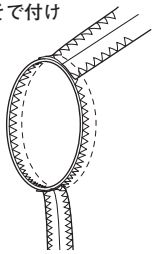
●バッグ



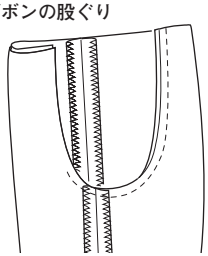
●ポケット



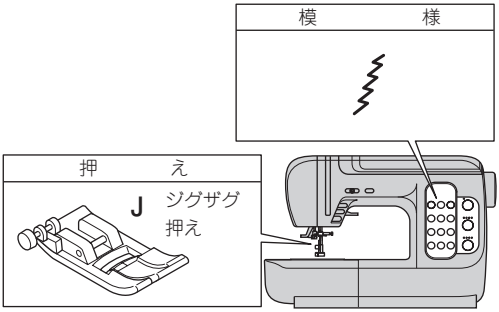
●そで付け



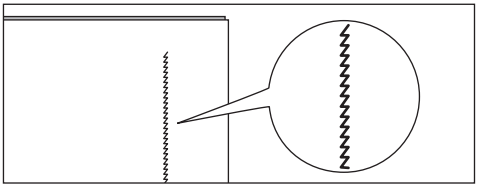
●ズボンの股ぐり



伸縮ぬい

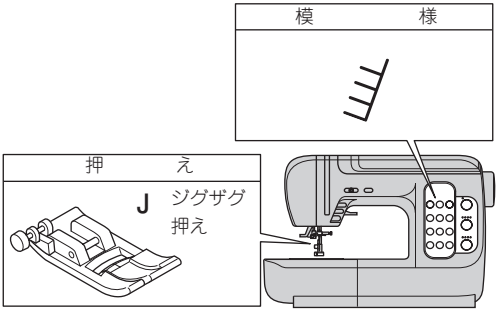


伸縮性のある直線状のぬいです。伸び縮みがきき、布地を伸ばしてもぬい糸は切れません。

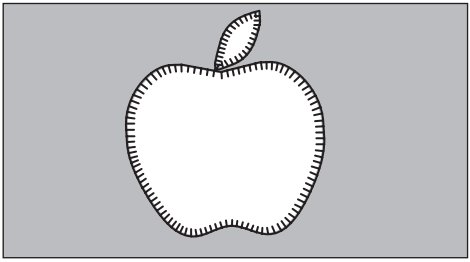


● 伸縮性布地をぬう場合は、ニット針を使うと、目飛びや糸切れを防ぎます。

アップリケ



市販や自作のアップリケ布を丈夫にぬい付けます。

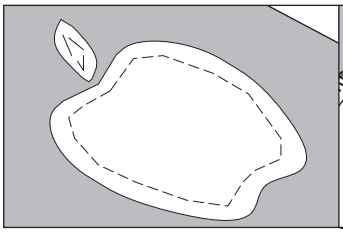


❶アップリケ布を止めます。

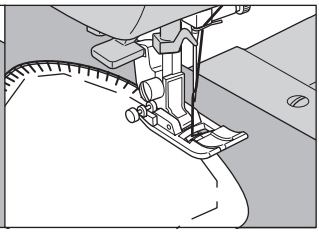
❷ アップリケの布端をたち目かがりと同じ要領でぬい付けます。

●急な角度をぬう場合

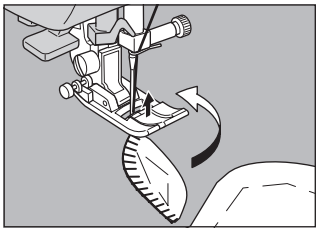
布端に針を落とした状態で押えを上げ、布地を回します。



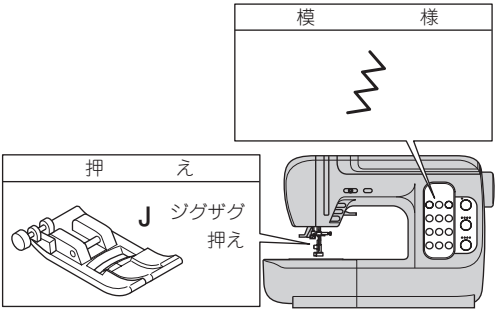
のりづけまたはしつけをします。



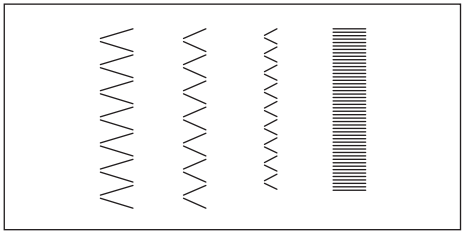
カーブの強いものは、ジグザグのふり幅を小さくします。



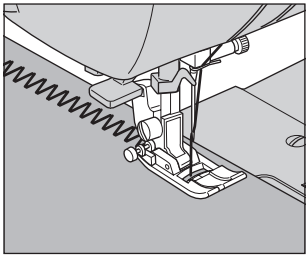
ジグザグぬい



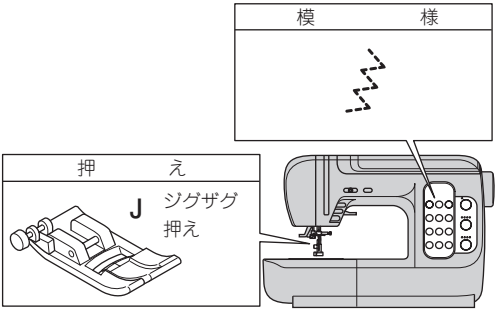
ぬい目長さ、ジグザグのふり幅を調節して
いろいろな形のジグザグぬいができます。



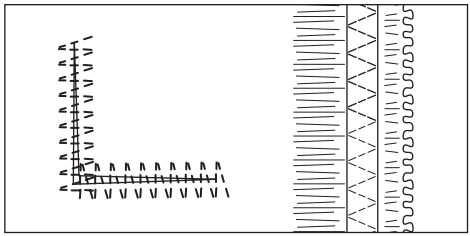
布地のはぎ合わせやふちかがりなどのほ
か、飾りぬいにも広く用いられます。
ふちかがりぬいは、次ページを参照くださ
い。



つくろいぬい（点線ジグザグぬい）

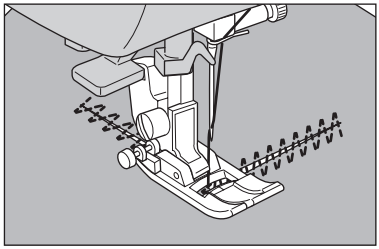


やぶれた布地のつくろいぬいや、ゴムひも
のぬい付けなどに利用します。



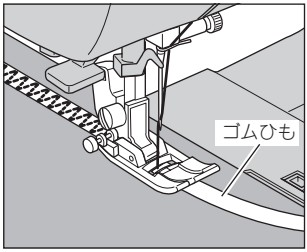
●つくろいぬい

ぬい目の長さをこまかくしてぬいます。



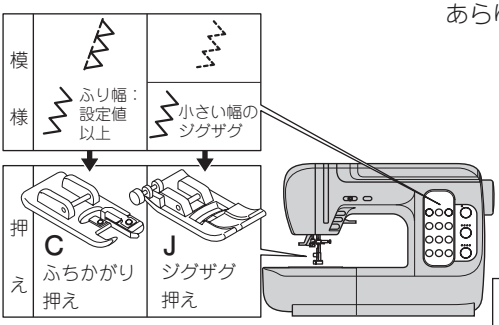
●ゴムひも付け

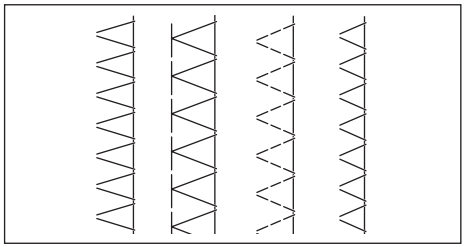
ゴムひもを前後に伸ばしながらぬい付
けます。

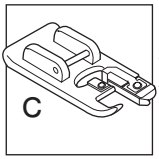


ふちかがりぬい（たち目かがり）

あらゆる布地のたち目のほつれを防ぐぬい方です。



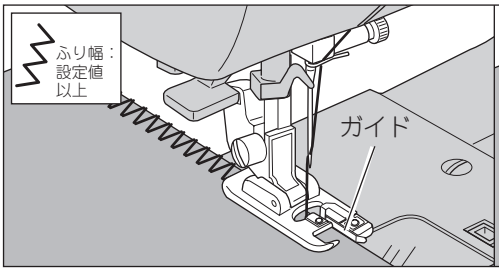




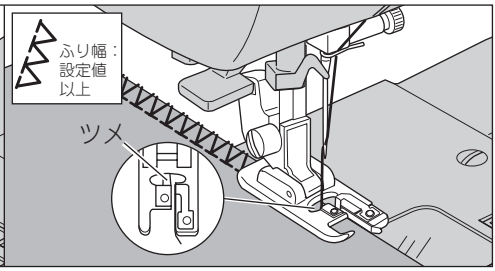
ふちかがり押えを使う場合：
布端を押えのガイドにあて、針が布端いっぱいに落ちるようにしてぬいます。

⚠注意：ケガ防止のために；

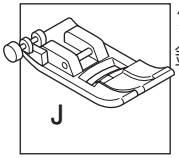
ふちかがり押えを使うときは、必ず模様（ ）を選び、ふり幅を設定値以上にしてください。また、ぬう前には必ずハズミ車をゆっくり手前に回して、針が押えにあたらないことを確認してください。ほかの模様では針が押えにあたり、危険です。



たち目のほつれ止めとして、広く利用します。

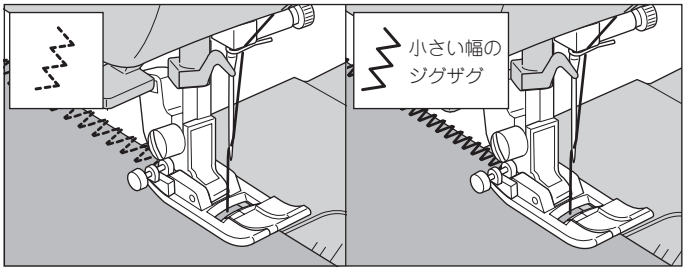


かがりぬいと地ぬいが同時にできるぬいです。タオル地や目の粗いニット地などをぬうときは、ジグザグ押えをお使いください。押えのツメが布にからむことがあります。



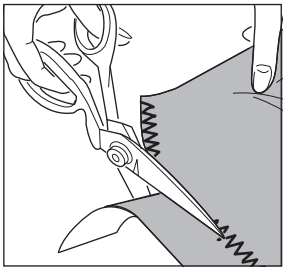
ジグザグ押えを使う場合：
針が布端ぎりぎりに落ちるようにしてぬいます。

あらかじめ布地の内側をぬい、あとからぬい端を切り落とす方法もあります。



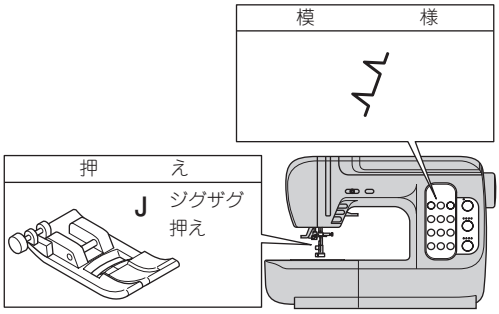
厚地、伸縮性のある布に利用します。

小さい幅のジグザグでかがるときに使います。

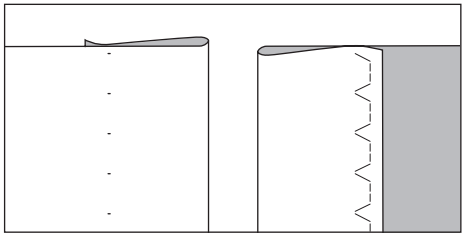


この場合、ぬい糸を切らないように注意してください。

まつりぬい（ブラインドステッチ）

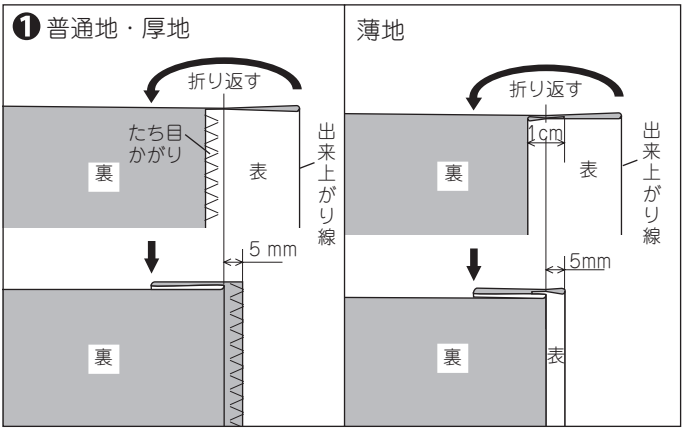


布地の表面に目立たないぬい目を作るぬい方です。ズボンやスカートのすその仕上げなどに使います。

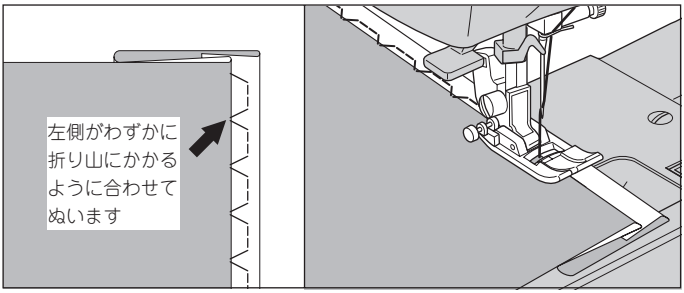


❶布を出来上がり線で折り、図のように布端が5mm出るように折り返します。
薄地の場合、布端をあらかじめ1cm中に折り込んでから、5mm出るように折り返します。

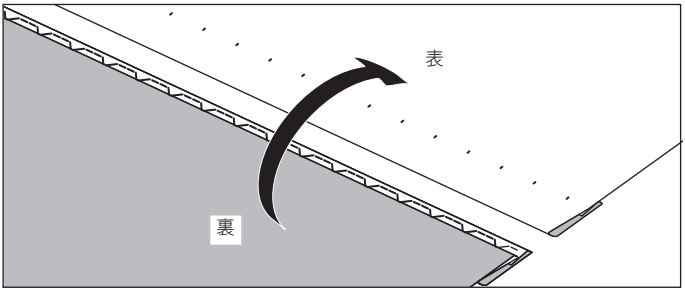
ぬい上がり後の布地の裏・表を間違えないように注意してください。



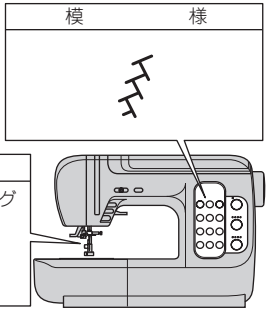
❷針が最も左側にきたときに折り山にわずかにかかるように布の位置を合わせてぬいます。



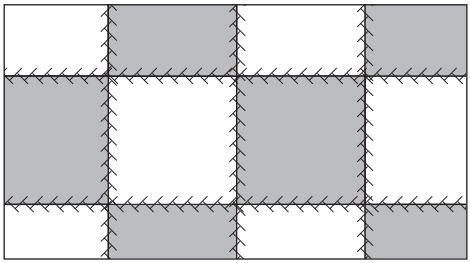
❸ぬい終わりましたら、布を返します。



パッチワーク



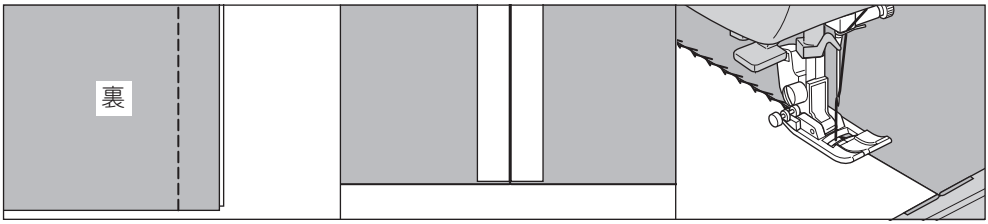
いろいろな布をはぎ合わせ、装飾に用います。



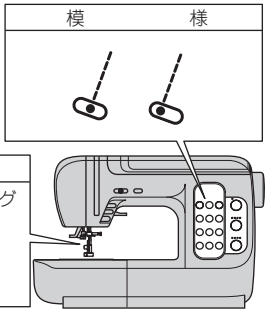
❶ 2枚の布地を中表に合わせ地ぬいをします。

❷ ぬい代をわります。

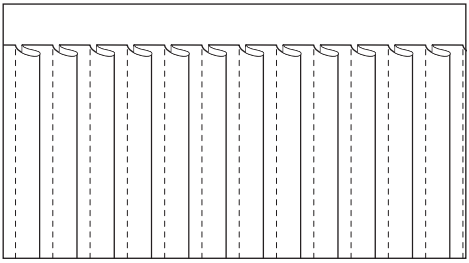
❸ 両方の布地に模様がまたがるようにしてぬいます。



ピンタック



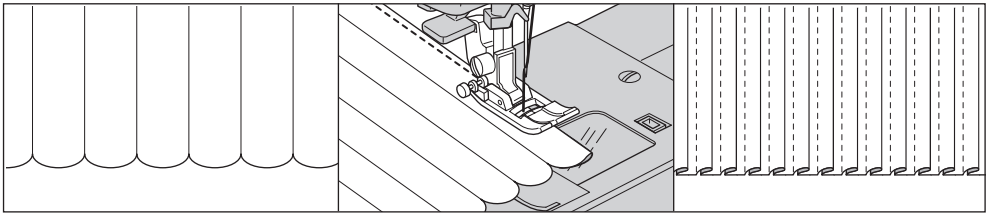
ブラウスなどの装飾に使います。



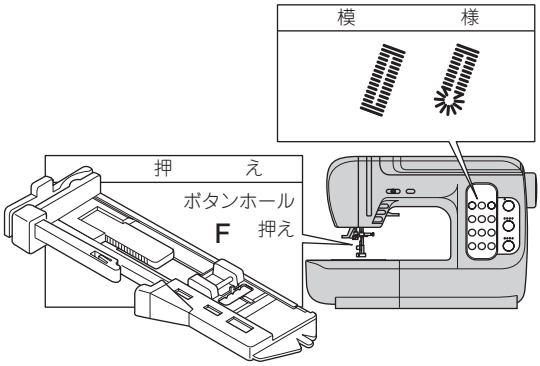
❶ アイロンでピンタックの折り山を整えます。

❷ 折り山を伸ばさないようにしながら、ピンタックをぬいます。

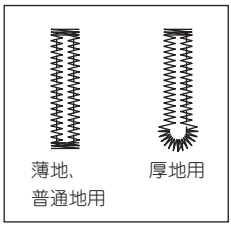
❸ アイロンで片側に倒します。



ボタンホールぬい

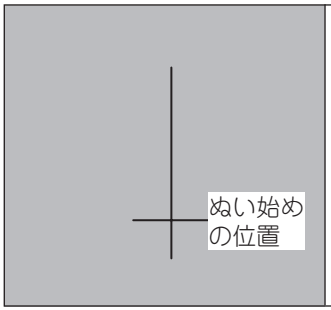


２種類のボタンホールをそれぞれワンタッチでぬうことができます。

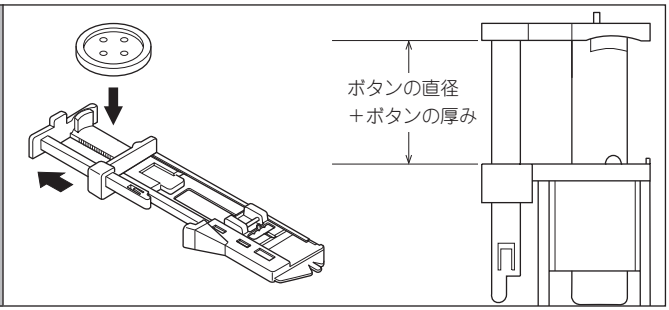


それぞれジグザグのふり幅機能設定で、幅を３段階に変えられます。

❶ 布地のボタンホールをぬう位置に印を付けます。



❷ ボタンを押えの台にセットします。

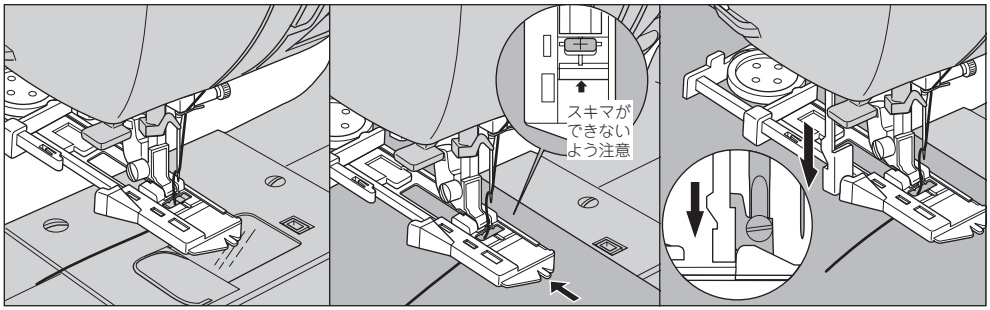


● **台にボタンがのらないとき**
台の幅が「ボタンの直径＋ボタンの厚み」になるようにスライドさせます。

❸ 上糸を押えの穴に通し、左側に出しておきます。

❹ 布の印が押えの印に合うように布地を入れ、押えを下げます。

❺ ボタンホールレバーをいっぱいに下げます。

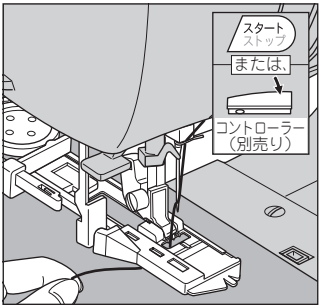


下糸を引き上げているときは、下糸も左側に出しておきます。

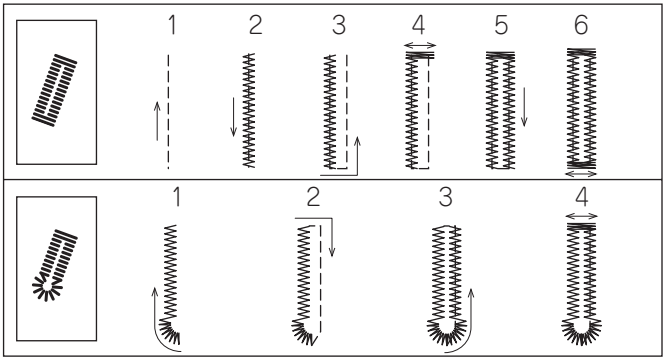
押えの枠と押えの間にスキマができないよう、枠を一番向こう側に戻してください。

ご注意：ボタンホールレバーをきちんと下げないと、お知らせランプが赤く点灯し、２～３針ぬって止まります。

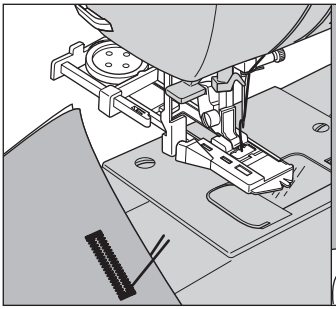
❻ 上糸を軽く持ちながら、スタートさせます。



❼ 図の順序でボタンホールがぬわれていきます。
ぬい終わると自動的に止めぬいをして止まります。

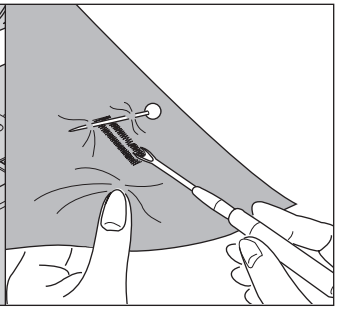


❽ 糸切りボタンを押します。押えを上げて、布を外します。



ボタンホールをもう一度ぬうには、
押えを一回上げてください。
（押えが最初の位置に戻ります）

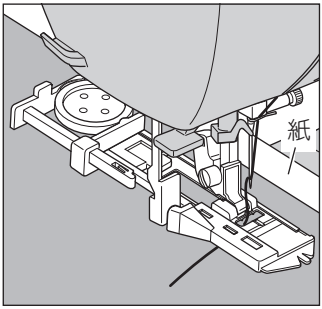
❾ シームリッパーでボタン穴を切り開きます。

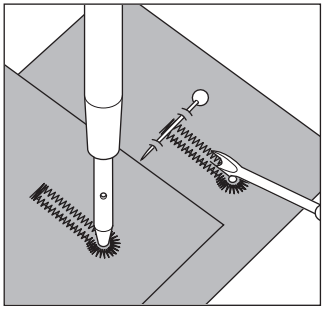


ぬい糸を切らないように注意してください。
かん止めのところにまち針を刺しておくと、
切り過ぎがありません。

⚠ 注意：ケガ防止のために；
シームリッパーで、穴を開く時、リッパーの先端に手や指を置かないでください。すべった時ケガをする恐れがあります。

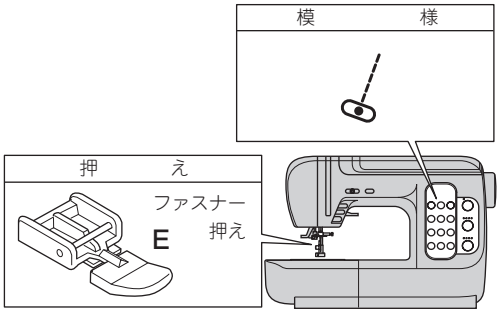
● 伸縮性のある布地の場合
裏に紙などをしいてぬいます。ぬい終わったら、紙を取り除きます。

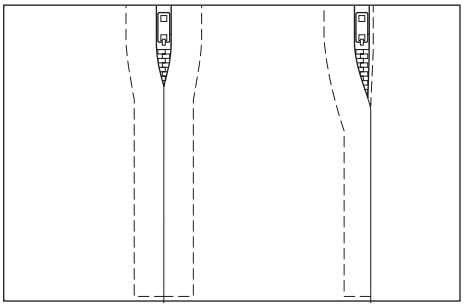




模様 のキーホールには、はと目穴パンチ（市販品）で穴をあけてからシームリッパーで切り開くときれいに仕上がります。
穴をあけるときは、下に厚紙などをしいてください。

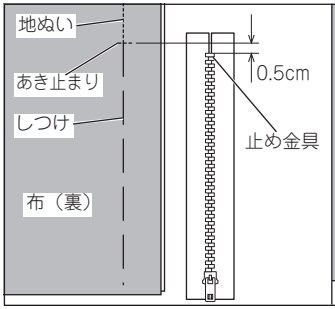
ファスナー付け（つき合わせ・脇あき）





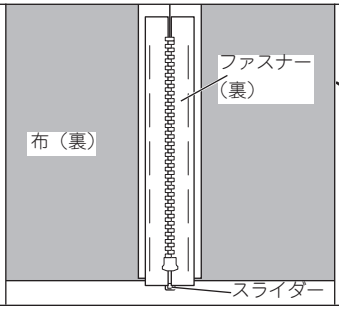
■つき合わせ

❶中表にして、あき止まりまで地ぬいをします。



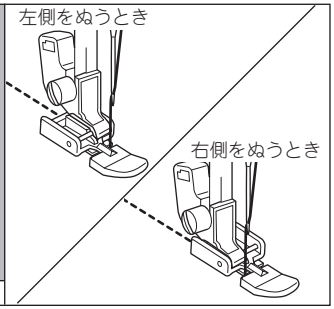
あき部分はしつけをします。

❷ぬい代をわり、ファスナーをしつけます。



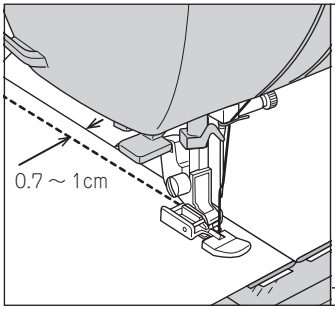
ぬい目線とファスナーの中心を合わせてとめます。
スライダーは手前に倒します。

❸ファスナー押えを取り付けます。



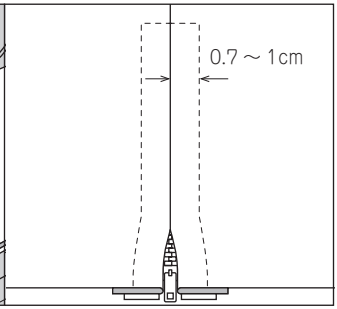
ファスナーの左側をぬうときは、押えの右側のミゾを押えホルダーに入れ、右側をぬうときは、左側のミゾをホルダーに入れます。

❹ファスナーの左側をあき止まりからぬいます。



布の合わせ目から 0.7 ～ 1cm 離してぬいます。

❺あき止まりと右側をぬい、しつけをとります。



右側も同様に 0.7 ～ 1cm 離してぬいます。

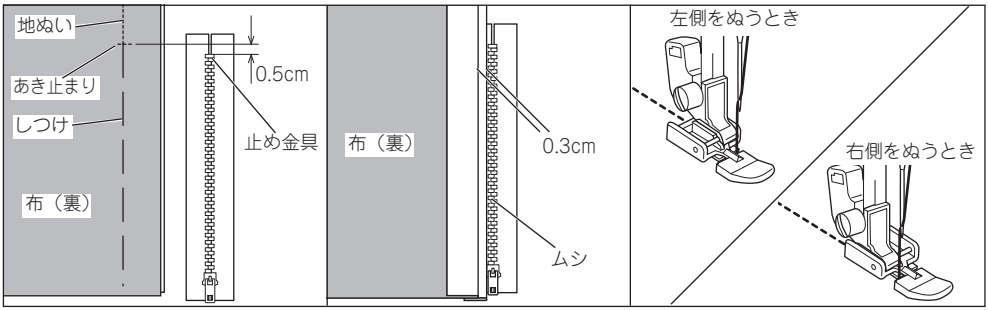
⚠注意：ケガ防止のために；
ファスナー押えを使うときは、必ず模様（ ）を選び、針位置は変えないでください。また、ぬう前には必ずハズミ車をゆっくり手前に回して、針が押えにあたらないことを確認してください。ほかの模様、針位置では、針が押えにあたり危険です。

■脇あき

❶中表にして、あき止まりまで地ぬいをします。

❷ぬい代をわり、下の布のぬい代を 0.3cm 出して折り目をつけ、折り山をムシに合わせます。

❸ファスナー押えを取り付けます。



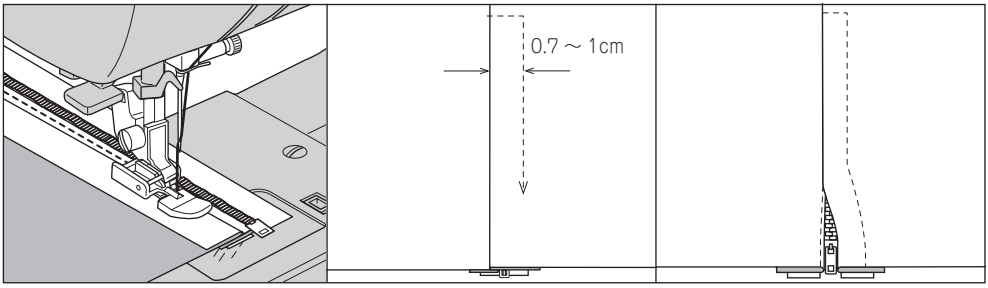
あき部分はしつけをします。

ファスナーの左側をぬうときは、押えの右側のミゾを押えホルダーに入れ、右側をぬうときは、左側のミゾをホルダーに入れます。

❹ファスナーの左側をあき止まりからぬいます。

❺上の布を開き、あき止まりと右側をぬいます。

❻スライダーの手前で止め、しつけを取り、スライダーを下げて残りをぬいます。

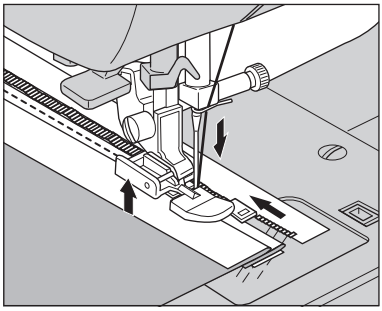


押えがファスナーのムシにのらないようにしてぬいます。

右側は、布の折り目から 0.7 ～ 1cm 離してぬいます。

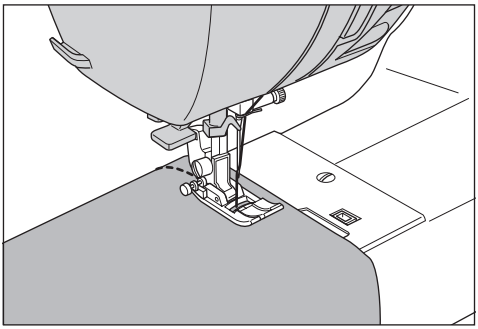
●スライダーをよけてぬうには：

1 スライダーの手前でミシンを止めます。（針が下位置で止まります。）
2 押えを上げて、スライダーを向こう側へ下ろします。
3 押えを下げてぬい続けます。



フリーアームぬい

補助テーブルを取り外すだけでフリーアームミシンになります。
袖口や肩口の始末、ズボンのすそのまつりぬいなどが簡単にできます。

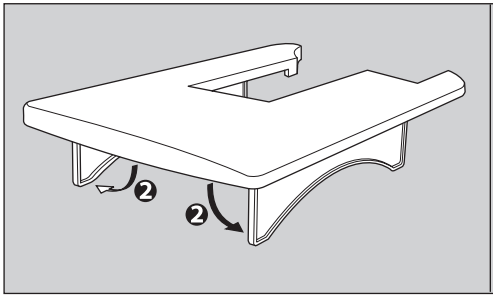


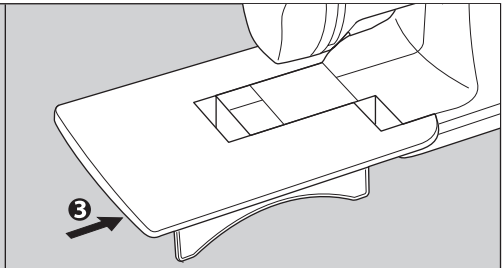
- 補助テーブルの取り外し方は6ページを参照ください。
- まつりぬいは 26 ページを参照ください。

大型テーブルのご案内（別売り品）

カーテンなどの大きなものをぬうときに取り付けます。

●取り付け方

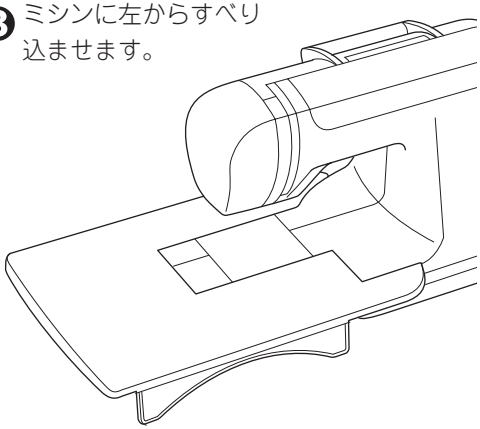




❶ 補助テーブルを取り外します。（6 ページ参照）

❷ 大型テーブルの脚を立てます。

❸ ミシンに左からすべり込ませます。

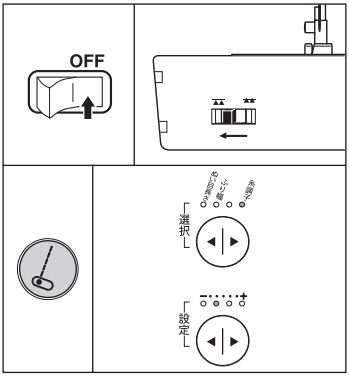


- お求めは、ミシンお買い上げの販売店にご相談ください。

刺しゅう機のご案内（別売り品）

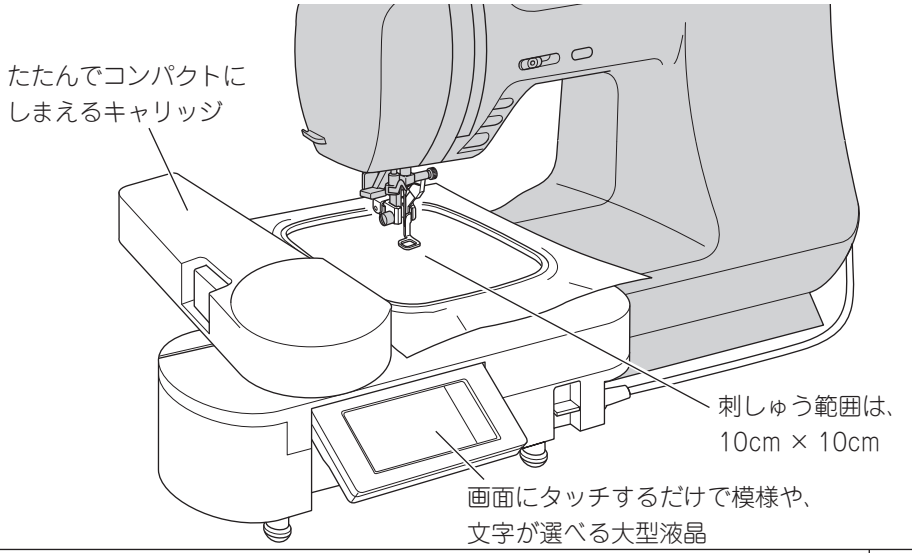
このミシンは、別売りの刺しゅう機を取り付けることによって、美しい刺しゅうぬいを簡単に楽しむことができます。
刺しゅう機には、ワンポイント刺しゅう、大型刺しゅうはもちろん、名前によく使われる漢字などの文字刺しゅうをたくさん内蔵しています。
詳しくは、ミシンお買い上げの販売店、またはお客様相談係にお問い合わせください。

刺しゅう機を取り付けるときは、まず、電源スイッチを切り、ドロップフィードレバーを左にして、送り歯を下げておきます。

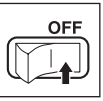


刺しゅう機を取り付けた後、ミシンの電源を入れると、模様は が選ばれ、機能表示ライトは、糸調子が選ばれます。糸調子は、自動設定されますが、手動で調節することができます。
ミシン側の操作は、上糸調子の他にスタートストップ、糸切り、針上下／クイックスロー、スピード調節、下糸巻きができます。

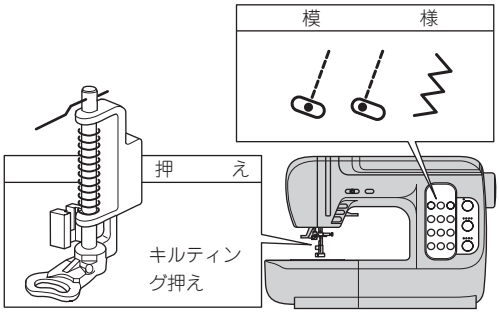
- 詳しい使い方は、刺しゅう機に付属の「使用の手びき」をご覧ください。
- 刺しゅう機のお求めは、ミシンお買い上げの販売店、またはお客様相談係にお問い合わせください。
- 刺しゅうぬいが終わったら、ドロップフィードレバーを右に戻して、送り歯を上げておいてください。



注意：ケガ防止のために；
刺しゅう機の取り付けは、必ず電源スイッチを切ってから行ってください。



キルティング押えのご案内（別売り品）

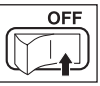


キルティング押えを使うと、布を手で操作して、ぬう方向を自由に変えられる曲線ぬいができます。
キルティング押えを使うときには、ドロップフィードレバーを左にして、送り歯を下げます。

● お求めは、ミシンお買い上げの販売店にご相談ください。

■キルティング押えの取り付け方

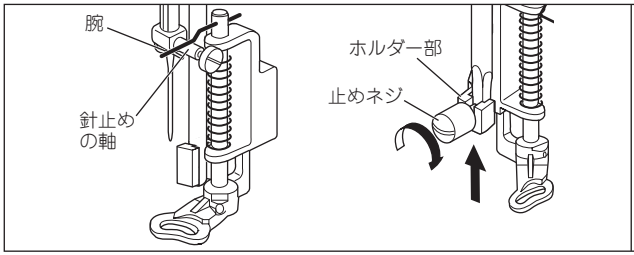
注意：ケガ防止のために；
必ず、電源スイッチを切ってから行ってください。

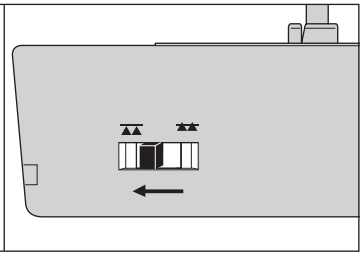


❶ 押えホルダーを取り外します。
（16 ページ参照）

❷ 押えの腕が、針止めの軸の上にくるように取り付け、押えのホルダー部を上に持ち上げながら、押えホルダー止めネジをしっかりとしめます。

❸ ドロップフィードレバーを左にして、送り歯を下げます。





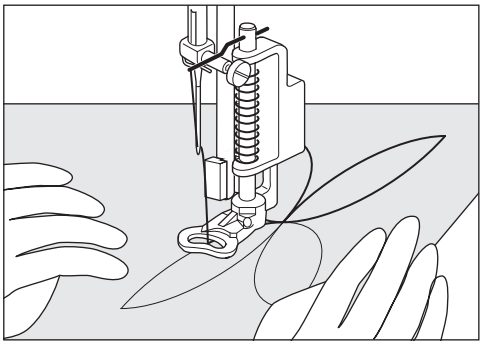
■ぬい方（曲線ぬい）

❶ 布に模様を下書きします。
薄い紙に書いて、布にのせる方法もあります。（ぬい終わってから紙を取り除きます。）

❷ 布を押えの下に入れ、押えを下げます。
押えは始めは浮いていますが、ぬい始めると針と一緒に上下に動き出します。

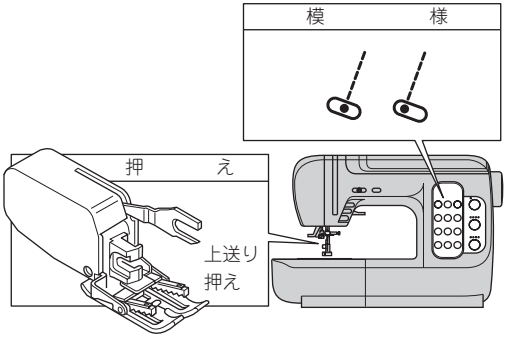
❸ スピードをゆっくりにします。

❹ 下絵にそって布を動かしてぬいます。
このとき手が針に触れないよう、十分注意してください。



● ぬいが終わったら、ドロップフィードレバーを右に戻して送り歯を上げておいてください。

上送り押えのご案内（別売り品）



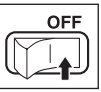
くっついたり、伸びたり、また、すべりやすい布地に、上送り押えを使うと２枚の布地がずれることなく、きれいで均一なぬい目が得られます。
次のような布地にお使いください。

- ●格子じまやしま地
- ●ビニール、レザーや、つやのある布地
- ●パイル地、けば立った布地
- ●ベルベットやとくにすべりやすい化繊地
- ●長いぬい合わせに…

● お求めは、ミシンお買い上げの販売店にご相談ください。

■上送り押えの取り付け方

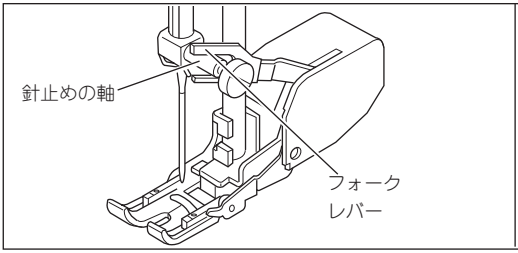
⚠ 注意：ケガ防止のために；
必ず電源スイッチを切ってから行ってください。

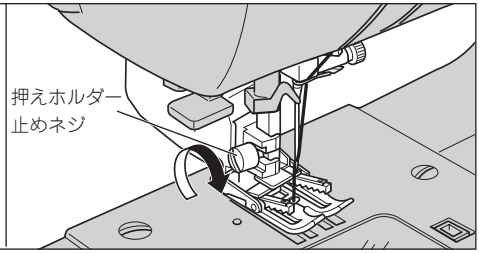


❶ 押えホルダーを取り外します。
（16 ページ参照）

❷ 上送り押えのフォークレバーを針止めの軸にかけます。

❸ 押えのホルダー部を押え棒に後ろから取り付け、押えホルダー止めネジをしっかりとしめます。

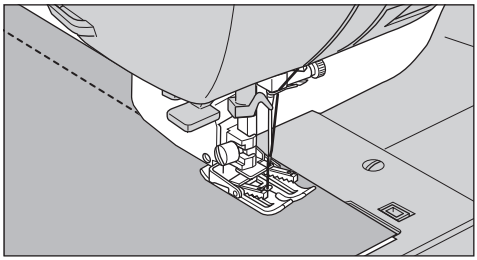




■ぬい方

スピードをゆっくりにしてぬってください。

⚠ 注意：ケガ防止のために；
上送り押えは、必ず上記の模様だけにお使いください。



ミシンのお手入れ

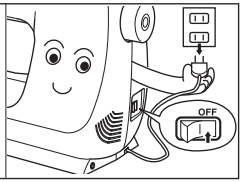
糸くずやほこりがたまると、ぬい上がりを悪くしたり、故障の原因にもなります。
いつも清潔にしておいてください。

● **お知らせ**

このミシンのランプには、長寿命の LED ランプを使用しています。
もし、ランプが切れた場合には、ミシンお買い上げの販売店にご相談ください。

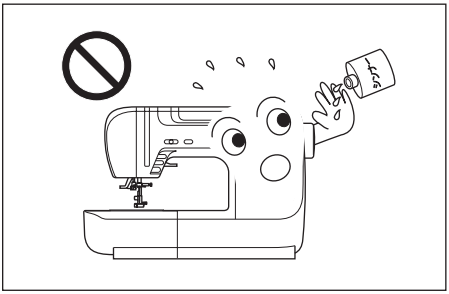
⚠警告；感電、ケガ防止のために；

お手入れの際は、必ず電源スイッチを切り、電源プラグを抜いてください。



■ミシン表面、ミシンカバーの掃除

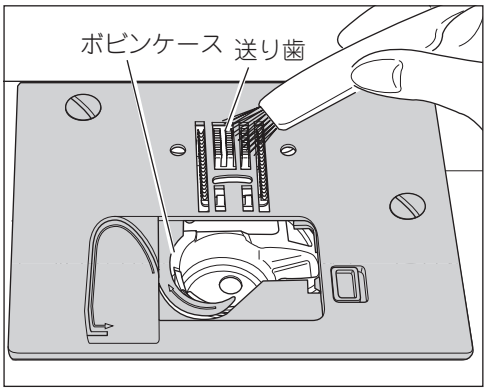
やわらかい布に中性洗剤を少し含ませて、よくふき取ってください。
シンナーやベンジンなどでふかないでください。



■ ボビンケースの掃除

ボビンカバーとボビンを取り外し、ブラシなどで掃除してください。

● 外がまやボビンケースには、油をささないでください。



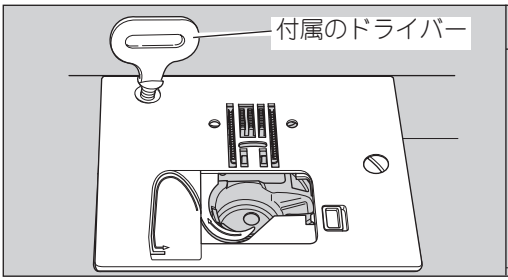
■ 外がまと送り歯の掃除

定期的に針板を外して、中の外がまや送り歯を掃除してください。

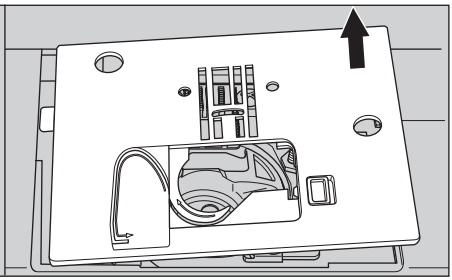
⚠ 注意：ケガ防止のために

針板を外すと、送り歯の左下に糸切り装置があります。この内部には糸を切るための鋭利な部品が使われています。安全のため、糸切り装置には、直接指で触らないでください。

❶ 針と押えホルダーを取り外します。
ボビンカバーとボビンを取り外します。
針板止ネジ 2 本を外します。

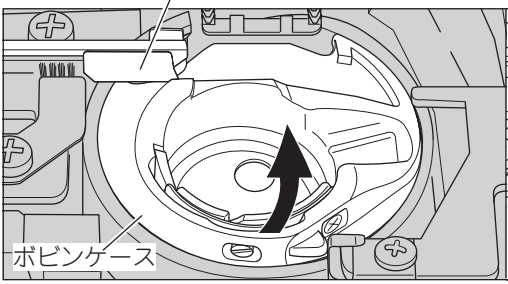


❷ 針板の右側を持ち上げて、針板を取り外します。



❸ ボビンケースの手前を上に持ち上げて取り出します。

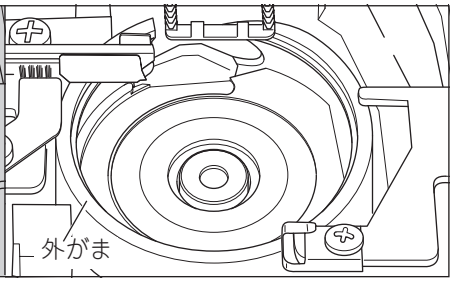
⚠ **注意** 糸切り装置に触らないでください。



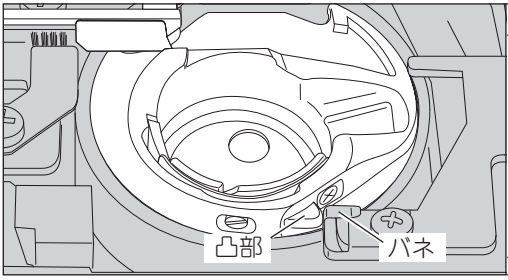
❹ 外がまと送り歯のまわりを掃除します。

●掃除機を使うときれいになります。

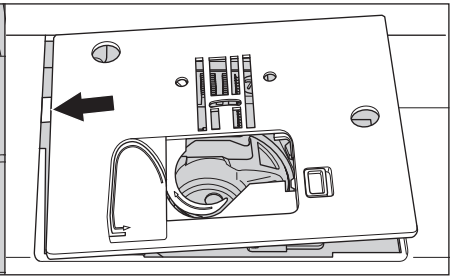
ボビンケースのよごれはかわいた布で軽くふき取ります。



❺ ボビンケースを外がまの中に手前からすべり込ませます。
ボビンケースの凸部が回転止めのバネに当たるようにします。



❻ 針板左側のツメをミシン本体に差し込んでから、針板止ネジを取り付けます。



こんなときには

ミシンの調子が悪い場合は、まず次のことを確かめてみてください。

不調の状態	原因	処置	参照ページ
上糸が切れる	糸のかけ方がまちがっている ボビンケースに糸がからまっている 針の取り付け方がまちがっている 布地に対して糸が弱すぎる	正しくかけ直します からんだ糸を取りのぞき掃除します 正しく付け直します 布地と糸、針の関係を合わせます	14 36 17 17
下糸が切れる	ボビンのセットがまちがっている ボビンケースに糸がからまっている 外がまにゴミがたまっている	正しくセットし直します からんだ糸を取りのぞき掃除します 掃除します	13 36 37
ぬい目がとぶ	針の取り付け方がまちがっている 針が曲がっているか、先がつぶれている 布地に対して糸と針が合っていない	正しく付け直します 針を取りかえます 布地と糸、針の関係を合わせます	17 17 17
ぬい目にしわがよる	糸のかけ方がまちがっている ボビンのセットがまちがっている 針の先がつぶれている	正しくかけ直します 正しくセットし直します 針を取りかえます	14 13 17
ぬい目に輪ができる	ボビンのセットがまちがっている 糸のかけ方がまちがっている	正しくセットし直します 正しくかけ直します	13 14
模様がくずれる	模様に対して押えが合っていない	模様に合った押えを取り付けます	22 ～
糸通しができない	針が上に上がっていない 針の取り付け方がまちがっている 針が曲がっている	針上下ボタンで針を上に上げます 正しく付け直します 針を取りかえます	8 17 17
布地を送らない	ぬい目長さが布地に合っていない 送り歯が下がっている 送り歯にほこりがかたまっている	ぬい目長さを調整します ドロップフィードレバーを右にして、送り歯を上げます 掃除します	10 8 37
針が折れる	布地を無理に引っ張っている 模様に対して押えが合っていない（針が押えにあたっている） 針の取り付け方がまちがっているか、しめ方がゆるい 布に対して針が細すぎる	手は布地にそえるだけにします 模様に合った押えを取り付けます 正しく付け直します 布地と糸、針の関係を合わせます	18 22 ～ 17 17
回転が重く音が高い	外がまや送り歯にゴミがたまっている	針板を外して掃除します	37
ミシンが動かない ●お知らせランプ …緑に点灯 …赤く点灯 …赤く点灯	電源プラグの差し込みが不十分である 電源スイッチが入っていない 上糸または下糸が切れたか、なくなった フットコントローラー（別売り品）が取り付けてある 糸巻き軸が右へ押されている 押えが上がっている ボタンホールぬいで： ボタンホールレバーがきちんと下がっていない ボタンホール押えが取り付けられていない	しっかり差し込みます スイッチを入れます 上糸または下糸をかけ直します コントローラーで操作するか、コントローラーを外します 左へ戻します 押えを下げます きちんと下げます ボタンホール押えを取り付けます	7 7 13,14 7 12 8 28 28

この頁に記載されている項目以外の不調、または部品の交換、電気系統の故障の修理サービスは、ご購入店または「お客様相談係」（次ページ参照）におたずねください。

お問い合わせまたはご相談先（純正部品の購入方法）

シンガーミシンについてのお問い合わせ、ご相談はご購入店のほか、下記の弊社「シンガーミシンお客様相談係」でも承っておりますのでご遠慮なくお申し越しください。

株式会社ハッピージャパン

「シンガーミシンお客様相談係」

〒110-0016　東京都台東区台東２丁目９番５号

TEL. 03-3837-1862　FAX. 03-3837-0072

＊ 住所および電話番号は都合により変更することがありますのでご了承ください。

＊ シンガー純正部品の購入についてのお問い合わせは、ご購入店のほか、上記の弊社「シンガーミシンお客様相談係」におたずねください。

仕様

定格電圧	100 V
消費電力	45 W
周波数	50Hz/60Hz
ランプ	白色 LED
寸法	幅：439mm × 高さ：287 mm × 奥行き：195 mm
重量	8.5 kg

修理サービス要領

●修理サービスのご相談

1 このミシンのご購入者には、ご購入店から３年間の「無料修理保証書」が発行されます。内容をお確かめの上、大切に保存してください。

2 修理サービスは無料保証期間内および期間経過後も原則としてご購入店が承りますので、ご相談ください。

●修理用部品の保存と供給

動力伝達機能部品および縫製機能部品のうち、交換修理に必要な部品は、製造打ち切り後、通常８年間は必要に応じて当社よりご購入店に供給できる体制を整えております。

●無料修理保証期間後の修理サービス

1 使用の手びきに基づいて正しい使用とお手入れがされていれば、無料修理保証期間を経過しても修理用部品の供給可能期間中は、ご購入店を通じて有料で修理サービスをいたします。
ただし、次に該当する場合は、有料でも修理できない場合がありますので、ご購入店にご相談ください。

イ　保存上の不備または、誤使用により不調、故障または損傷したとき。
ロ　浸水、冠水、火災等、天災、地変により不調、故障または損傷したとき。
ハ　ご購入後の移動または輸送によって不調、故障または損傷したとき。
ニ　ご購入店または当社の指定する販売店あるいはサービス店以外で修理、分解または改造したために不調、故障または損傷したとき。
ホ　職業用として無理なご使用により不調、故障または損傷したとき。

2 長期間にわたってご使用されたミシンの精度の劣化は修理によっても元どおりに修復できないことがあります。

3 有料修理サービスの場合の費用は、別に定める必要部品代金、交通費および技術料金の合計額となります。

4 このミシンは持ち込み修理品ですので、修理の際はご購入店までお持ち込みくださるよう、お願いいたします。

160 年以上も家庭用ミシンを作り続けてきたシンガーは、迅速で正しいサービスをモットーとして全世界のご家庭に安心して使えるミシンをお届けいたしております。

●無料修理保証について

1. 無料修理保証期間（ご購入の日から３カ年間）内に故障した場合は、無料で故障箇所の修理調整または故障部品の交換をいたします。
2. 無料修理保証は表記ミシン頭部のみとし、ケース、針及び電球など消耗部品を除きます。
3. 無料修理保証をお受けいただくときは、この保証書を提示してください。
4. 無料修理保証をお受けいただくときは、ミシンを購入店へご持参またはご相談ください。

●無料修理保証が受けられない場合

次のような場合には、保証期間内でも保証の対象とはなりません。

1.「使用の手びき」に記載してある使用方法または、保存方法と異なる方法によったため不調、故障または損傷したとき。
2. 浸水、冠水、火災等、天災地変により不調、故障または損傷したとき。
3. ご購入後の移動または輸送によって、不調、故障または損傷したとき。
4. ご購入店、または当社で指定した販売店、サービス店以外で修理分解または改造したために不調、故障または損傷したとき。
5. 職業用等過度なご使用により不調、故障または損傷したとき。
6. 特別なご依頼により点検、精密検査または分解掃除等をしたとき。
7. この保証書のご提示がなかったとき。
8. この保証書に購入年月日、ご購入店名の記載または捺印がなかったとき。
9. この保証書の字句の訂正または書き換え等をしたとき。
10. この保証書は日本国内に限り有効といたします。

●有料修理について

1. 上記の 1. ～ 10. に該当する場合、その他有料で修理をするときの費用は、別に定める必要部品代、出張費および技術料の合計額といたします。
2. 無料修理期間中にお客様のご依頼によって販売店が出張修理する場合は、別に定める出張費をいただきます。

●お客様へのお願い

1. この保証書は、本書によって明示した期間、条件のもとにおいて無料修理をお約束するものです。従ってこの保証書によってお客様の権利を制限するものではありませんので、保証期間経過後の修理について、ご不明の場合はご購入店または、当社の「お客様相談係」等へお問い合わせください。
2.「使用の手びき」の「修理サービス要領」をよくお読みください。
3. この保証書は紛失されても再発行いたしませんので、大切に保存してください。

SINGER®
シンガーミシン

保　　証　　書

機械本体がお客様の正常な使用状態で万一故障した
場合は、裏面記載の内容で無料修理を保証します。

型　　式		SC-90	機械番号	
＊お買上げ日		年　月　日	保証期間	お買い上げ日より本体 3 年
＊お客様	ご住所	〒　　TEL		
	フリガナ ご芳名	様		
＊販売店	住　所 店　名	〒 ㊞ TEL		

＊印欄に記入のない場合無効となります。必ず記入の有無をご確認ください。
もし、記入がない場合には、直ちにお買い上げの販売店にお申し出ください。
本書は、再発行致しませんので、紛失しないように大切に保管してください。

株式会社ハッピージャパン
ミシン営業部
〒110-0016　東京都台東区台東２丁目９番５号
電話　03-3837-1865

（本社）〒990-2251　山形県山形市立谷川３丁目3515

® は THE SINGER COMPANY の登録商標です。

36533 A7 SC-90